

1. 施策の概要

施策シート【23_01】

観光にぎわい部、土木部

施策名称		里山など豊かな自然空間の保全・継承			
総合計画体系	基本目標等	5.自然と共生し、美しい環境を守り育てるまち			
	施策目標等	23.豊かな自然環境を大切にするまち			
めざす姿（主観的満足度）		里山や農地などの豊かな自然環境が保全されている			
概要		里山など豊かな自然空間の保全・継承を図る。			
計画期間 中の 実施予定 時期	R6年度				
	R7年度				
	R8年度				
	R9年度				

2. 市民満足度、取り組み実績および施策指標の分析

市民満足度の分析

【満足度25.3%】

- ・年代別では、40歳台が最も高く、35.1%である。最も低いのは、70歳台で20.1%であった。
- ・昨年度と比較すると全体では、13.0ポイント減少したが、若者世代（24歳以下）では10.6ポイント増加した。

取り組み実績および施策指標の分析

【取り組み実績】

- ・施策の進捗としては、一部未達成であるものの目標達成に向け、推進している。

【施策指標】

- ・「森林ボランティア育成講座修了者数（累計）」、「緑地面積」が未達成である。それ以外の指標については、達成している。

3. 具体的な取り組みの進捗と施策指標の実績

施策シート[23_01]－ 具体的な取り組み

観光にぎわい部、土木部

施策名称	里山など豊かな自然空間の保全・継承
------	-------------------

1. 里山の保全

取り組みの内容	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	担当課
・里山講座（森林ボランティア育成事業）の開催。 ・里山保全活動の推進。	・里山講座の開催 ・竹林整備・植物観察会（春・秋）等の開催 ・里山保全活動8団体が実施する東部地域の里山保全活動を支援	継続	・継続 ・里山保全作業道等補修実施設計 ・里山保全基本計画の改定	・継続 ・里山保全作業道等補修工事	農業振興課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	取り組み結果	取り組み結果	取り組み結果	備考
これまでの取組を継続して実施するとともに、持続的な里山保全の担い手の確保に向けて、若い世代へのアプローチ手法を検討する。ローカル10,000プロジェクトとの連携により、担い手の確保を目指す。	里山講座や植物観察会（春・秋）の開催など、里山の自然や保全活動に触れる機会を設けた。また、申請のあった保全活動団体4団体に対して支援。	里山講座の修了生向けフォローアップ講座や植物観察会（春・秋）の開催など、里山の保全活動などに触れる機会を設けた。また、申請のあった里山保全活動団体3団体に対して支援。			
年度ごとの達成状況	◎	○			

施策シート【23_01】－ 施策指標

観光にぎわい部、土木部

施策名称	里山など豊かな自然空間の保全・継承
------	-------------------

指標名	指標の説明	R6	R7	R8	R9	単位	担当課	関連する取り組み等
森林ボランティア育成講座修了者数 (累計)	森林ボランティア育成講座の受講者のうち 規定の日数に出席し修了証を取得した人 数 (累計)	430	450	470	490	人	農業振興課	1. 里山保全事業
各年度の実績		416	416			人	備考	
【施策指標の分析 R6】 令和6年度の里山講座の受講者が7名と少なく、修了証を取得した人数は目標の20 人に対して6人となった。なお、累計には、森林スペシャリスト育成講座(H30～R2)の 修了者数を含んでいる。								
【施策指標の分析 R7】 令和7年度の里山講座について、連続講座には参加者が集まらず、開催に至らなかつ た一方、令和6年度以前の修了生を対象にフォローアップ講座を開催し、里山保全団 体の新設に向けた働きかけを行った。								
里山保全活動団体の活動日数 (累 計)	東部地域で活動する里山保全活動団体の 年間活動日数 (累計)	4,600	4,800	5,000	5,200	日	農業振興課	1. 里山保全事業
各年度の実績		4,736	4,968			日	備考	
【施策指標の分析 R6】 里山保全活動補助金の実績報告により把握。								
【施策指標の分析 R7】 里山保全活動補助金の実績報告で把握予定								
整備後の里山保全作業道を利用して 里山保全活動に取り組む団体の数	整備後の里山保全作業道を利用して里山 保全活動に取り組む団体の数	-	-	-	1	団体	農業振興課	1. 里山保全事業
各年度の実績		-	-			団体	備考	
【施策指標の分析 R6】 —								
【施策指標の分析 R7】 —								

取り組みに紐づかない指標

施策シート【23_01】－ 施策指標

観光にぎわい部、土木部

施策名称		里山など豊かな自然空間の保全・継承						
指標名	指標の説明	R6	R7	R8	R9	単位	担当課	関連する取り組み等
緑地面積	都市公園やそれに準じる施設、緑地保全地域などの法律や条例などで土地利用を管理して確保する緑地など、将来にわたって確保される可能性の高い担保性のある緑地面積	1,529	1,532	1,532	1,533	ha	公園みどり課	-
各年度の実績		1,532	1,530			ha	備考	
【施策指標の分析 R6】 生産緑地が過年度より増加していた。								
【施策指標の分析 R7】 都市公園が昨年度より増加したものの、生産緑地の減少による影響が大きかった。								

4. 取組満足度と関心・期待度・ニーズの4象限マトリクス分析

関心・期待度・ニーズが高い

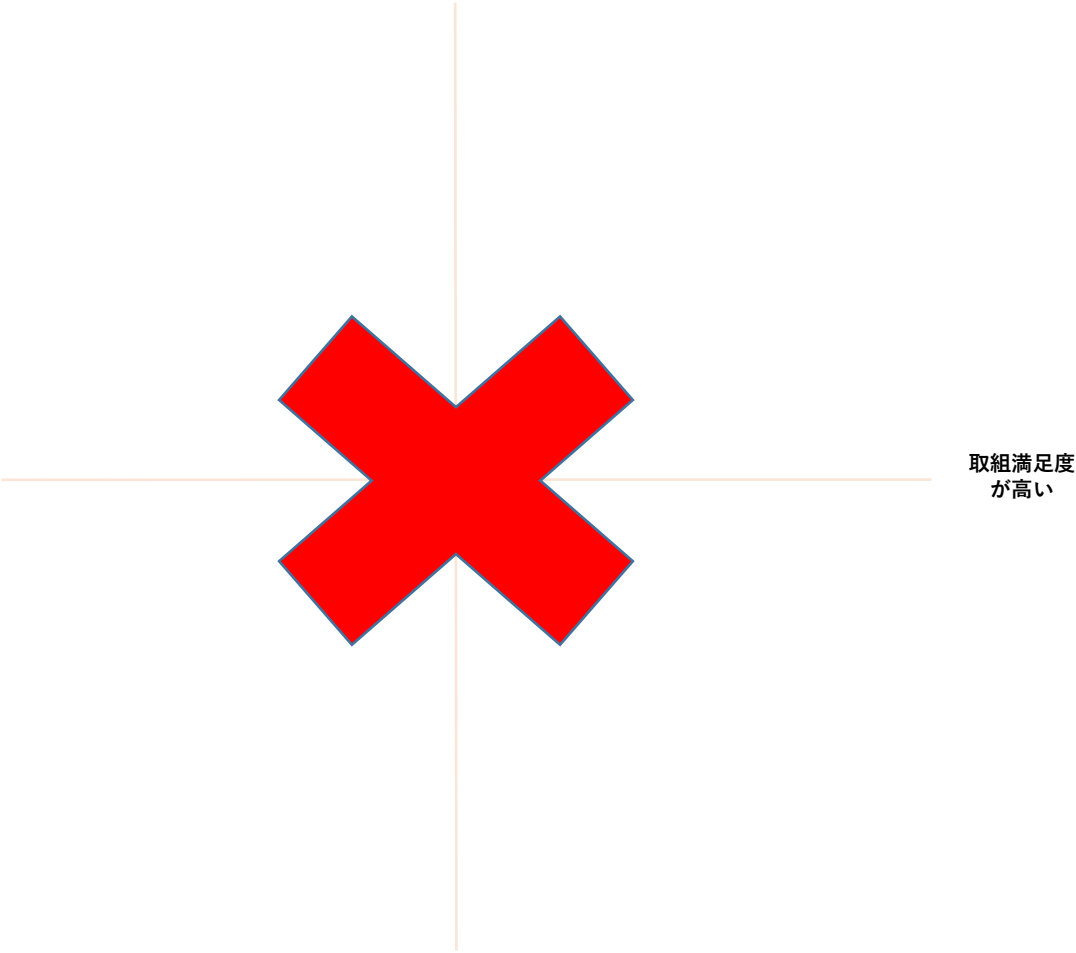
里山や農地などの豊かな自然環境が
保全されている
23_01 里山など豊かな自然空間
の保全・継承

施策満足度		
満足	不満足	どちらとも いえない わからない
25.3%	15.6%	59.1%
「決め手となった取り組みはない」と 回答した人		
58.1%		

※回答数／全体数1,762

※満足の定義は、「感じている」「やや感
じている」を選択した人で、
不満足の定義は、「あまり感じていな
い」「感じていない」を選択した人

※各施策における取組満足度や関心・期待・
ニーズを分析するものであり、異なる施策
間での比較を行うものではありません。



施策の分析

※取り組みが1つのためマトリクス分析不可
・里山の保全

5. 評価を踏まえた今後の方向性

今後の方向性

- ・ 施策の方向性としては、これまでの取組を継続して実施するとともに、市民意識調査では昨年度に比べて若者世代で自然環境への関心の高まりがうかがえるため、持続的な里山保全の担い手の確保に向けて、同世代へのアプローチ手法を検討していく必要がある。

1. 施策の概要

施策シート【24_01】

土木部

施策名称		自然とふれあい親しめる場の確保			
総合計画体系	基本目標等	5.自然と共生し、美しい環境を守り育てるまち			
	施策目標等	24.まちなかのみどりを育てるまち			
めざす姿（主観的満足度）		普段の生活の中でみどりとふれあえる			
概要		自然とふれあい親しめる場の確保を図る。			
計画期間 中の 実施予定 時期	R6年度				
	1. 子どもがワクワクするような公園の整備 ○計画策定				
	R7年度				
	R8年度				
	R9年度				

2. 市民満足度、取り組み実績および施策指標の分析

市民満足度の分析

【満足度51.7%】

- ・年代別では、30歳台が最も高く、59.3%である。最も低いのは、20歳台で46.2%であった。
- ・身近にみどりとふれあう環境がある人の73.2%がみどりとふれあえる環境に満足している。
- ・昨年度と比較すると全体では、10.0ポイント減少したものの、若者世代（24歳以下）では、2.4ポイントの減少に留まった。

取り組み実績および施策指標の分析

【取り組み実績】

- ・施策の進捗としては、一部未達成となっているものの、概ね達成できている。

【施策指標】

- ・「親子で楽しめる遊び場等のある公園の整備数」は未達成だが、目標には近づいている。

3. 具体的な取り組みの進捗と施策指標の実績

施策シート[24_01]ー 具体的な取り組み

土木部

施策名称	自然とふれあい親しめる場の確保
------	-----------------

1. 子どもがワクワクするような公園の整備

取り組みの内容	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	担当課
公園に幼児用遊具や休憩施設等を設置し、親子が安全で落ち着いて遊べる空間づくりを推進。	・利用者ニーズの把握、遊具整備に向けた計画策定 ・設計 ・連携事業の検討	・連携事業の実施 ・改修工事（車塚公園） ・詳細設計（次年度以降工事予定の公園） ※王仁公園の遊具更新（公園長寿命化事業） ・中振中央公園のB/Cの検討	継続 ・改修工事（伊加賀公園・王仁公園） ・中振中央公園の用地取得	継続 ・改修工事（3公園予定） ・中振中央公園の用地取得	公園みどり課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	取り組み結果	取り組み結果	取り組み結果	備考
主な利用者となる未就学児の保護者や小学生に加え一般市民も含めたアンケート調査を行い、ニーズを把握行った。結果に基づき、遊具、バリアフリートイレ、休憩施設等を順次、整備していく。	・利用者ニーズの把握、遊具整備に向けた計画策定 ・設計 ・連携事業の検討	・車塚公園・王仁公園に大型複合遊具などを整備・更新 ・次年度以降の詳細設計 ・中振中央公園のB/Cの算定			
年度ごとの達成状況	◎	○			

指標名	指標の説明	R6	R7	R8	R9	単位	担当課	関連する取り組み等
親子で楽しめる遊び場等のある公園の整備数	公園整備数	0	3	3	2	公園	公園みどり課	1. 公園への幼児や親子が遊べる遊具等の設置
各年度の実績		0	2			公園	備考	
【施策指標の分析 R6】 今年度は、次年度以降の整備に向けて、計画策定・設計等を行った。 来年度以降は、整備（設計・工事）に取り組んでいく。								
【施策指標の分析 R7】 車塚公園に大型複合遊具と幼児用コーナーを整備。王仁公園では幼児用コーナーと複合遊具の改修を行った。また、次年度以降に整備・改修を行うための実施設計を行った。								

4. 取組満足度と関心・期待度・ニーズの4象限マトリクス分析

関心・期待度・ニーズが高い

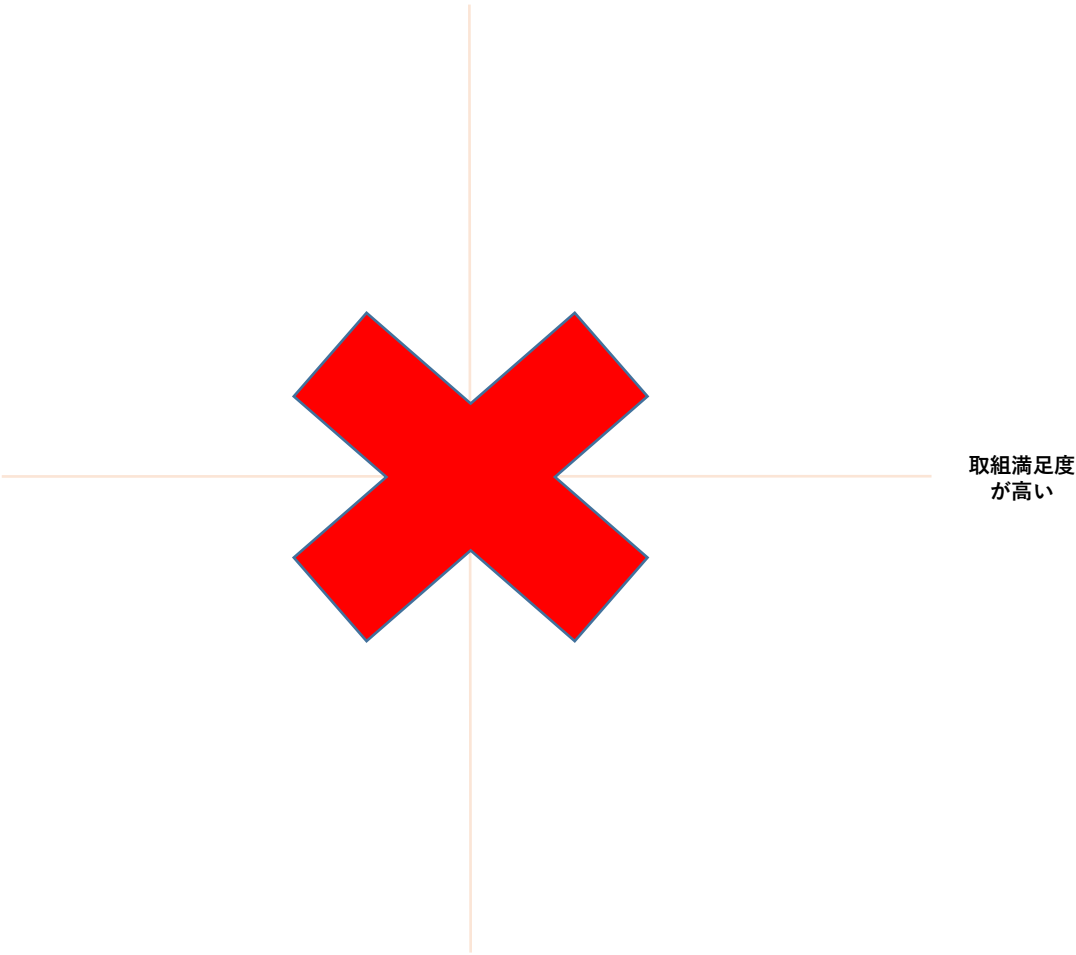
普段の生活の中でみどりとふれあえる
24_01 自然とふれあい親しめる場
の確保

施策満足度		
満足	不満足	どちらとも いえない わからない
51.7%	17.9%	30.4%
「決め手となった取り組みはない」と 回答した人		
25.7%		

※回答数／全体数1,762

※満足の定義は、「感じている」「やや感
じている」を選択した人で、
不満足の定義は、「あまり感じていな
い」「感じていない」を選択した人

※各施策における取組満足度や関心・期待・
ニーズを分析するものであり、異なる施策
間での比較を行うものではありません。



施策の分析

※取り組みが1つのためマトリクス分析不可
・子どもがワクワクするような公園の整備

5. 評価を踏まえた今後の方向性

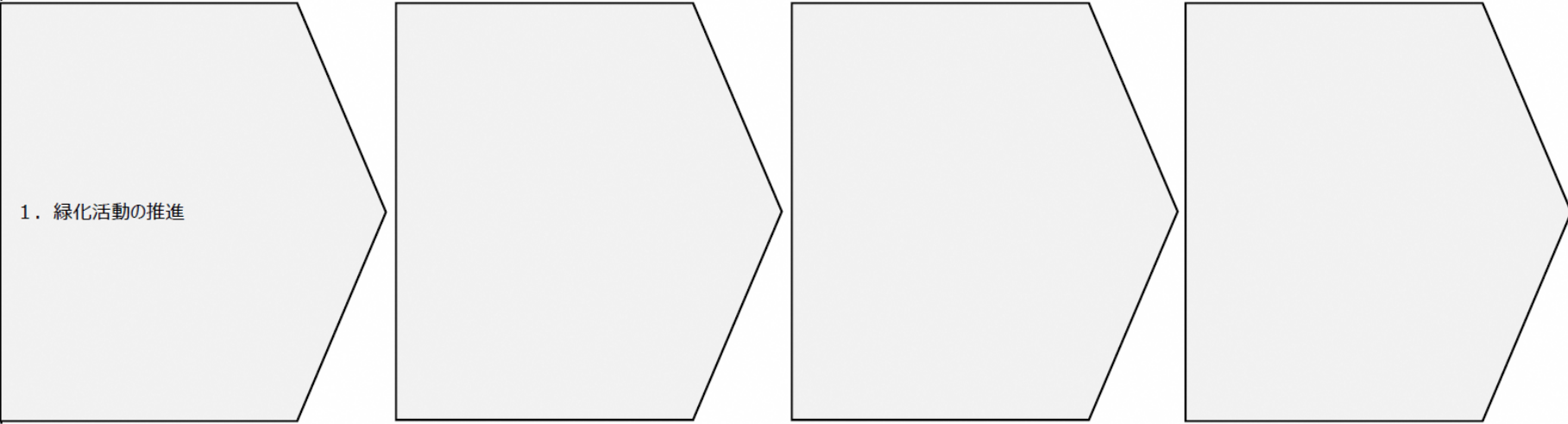
今後の方向性

- ・施策の方向性としては、市民ニーズの調査結果や整備済み遊具等の利用状況を基に、引き続き子ども子育て世帯等が自然とふれあい親しめる場の確保に向け、公園整備を進めていく。

1. 施策の概要

施策シート【24-02】

土木部

施策名称		緑化活動の活性化		
総合計画体系	基本目標等	5.自然と共生し、美しい環境を守り育てるまち		
	施策目標等	24.まちなかのみどりを育てるまち		
めざす姿（主観的満足度）		普段の生活の中でみどりとふれあえる		
概要		まちなかのみどりや、子育て世帯など幅広い世帯の人々にとっての憩い野場となる公園、河川敷などの緑地空間を守る。		
計画期間 中の 実施予定 時期	R6年度			

2. 市民満足度、取り組み実績および施策指標の分析

市民満足度の分析

【満足度51.7%】

- ・年代別では、30歳台が最も高く、59.3%である。最も低いのは、20歳台で46.2%であった。
- ・身近にみどりとふれあう環境がある人の73.2%がみどりとふれあえる環境に満足している。
- ・昨年度と比較すると全体では、10.0ポイント減少したものの、若者世代（24歳以下）では、2.4ポイントの減少に留まった。

取り組み実績および施策指標の分析

【取り組み実績】

- ・施策の進捗としては「1. 緑化活動の推進」は一部未達成となっているものの、概ね達成できている。

【施策指標】

- ・指標については、都市公園が増加したものの、生産緑地の減少による影響のため目標値を下回っている。

3. 具体的な取り組みの進捗と施策指標の実績

施策シート【24-02】- 具体的な取り組み

土木部

施策名称	緑化活動の活性化
------	----------

1. 緑化活動の推進

取り組みの内容	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	担当課
緑化活動の推進	公共・公益施設整備基準で定められている基準等に基づき協議を実施	継続	継続	継続	公園みどり課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	取り組み結果	取り組み結果	取り組み結果	備考
多くの市民の目に触れる位置にみどりを配置するなど、効率的な緑化を積極的に取り組む。	緑地面積は過年度より増加した。今後も緑化推進を継続して取り組む。	緑地面積は過年度より微減した。今後も緑化推進を継続して取り組む。			
年度ごとの達成状況	◎	○			

指標名	指標の説明	R6	R7	R8	R9	単位	担当課	関連する取り組み等
緑地面積	都市公園やそれに準じる施設、緑地保全地域などの法律や条例などで土地利用を管理して確保する緑地など、将来にわたって確保される可能性の高い担保性のある緑地面積	1,529	1,532	1,532	1,533	ha	公園みどり課	1. 緑化活動の推進
各年度の実績		1,532	1,530			ha	備考	
【施策指標の分析 R6】 生産緑地が過年度より増加していた。								
【施策指標の分析 R7】 都市公園が昨年度より増加したものの、生産緑地の減少による影響が大きかった。								

取り組みに紐づかない指標

施策シート【24－02】－ 施策指標

土木部

施策名称		緑化活動の活性化						
指標名	指標の説明	R6	R7	R8	R9	単位	担当課	関連する取り組み等
各年度における街路樹延長距離	市道の緑化済道路延長距離	0	858	80	0	m	道路河川整備課	-
各年度の実績		0	858			m	備考	
【施策指標の分析 R6】 都市計画道路整備による街路樹の設置がなかった。								
【施策指標の分析 R7】 牧野長尾線（長尾大池工区）・長尾杉線（長尾工区）の供用開始により街路樹延長が伸びた。							※目標整備延長は算出ミス。（目標値の重複計上を修正）	

4. 取組満足度と関心・期待度・ニーズの4象限マトリクス分析

関心・期待度・ニーズが高い

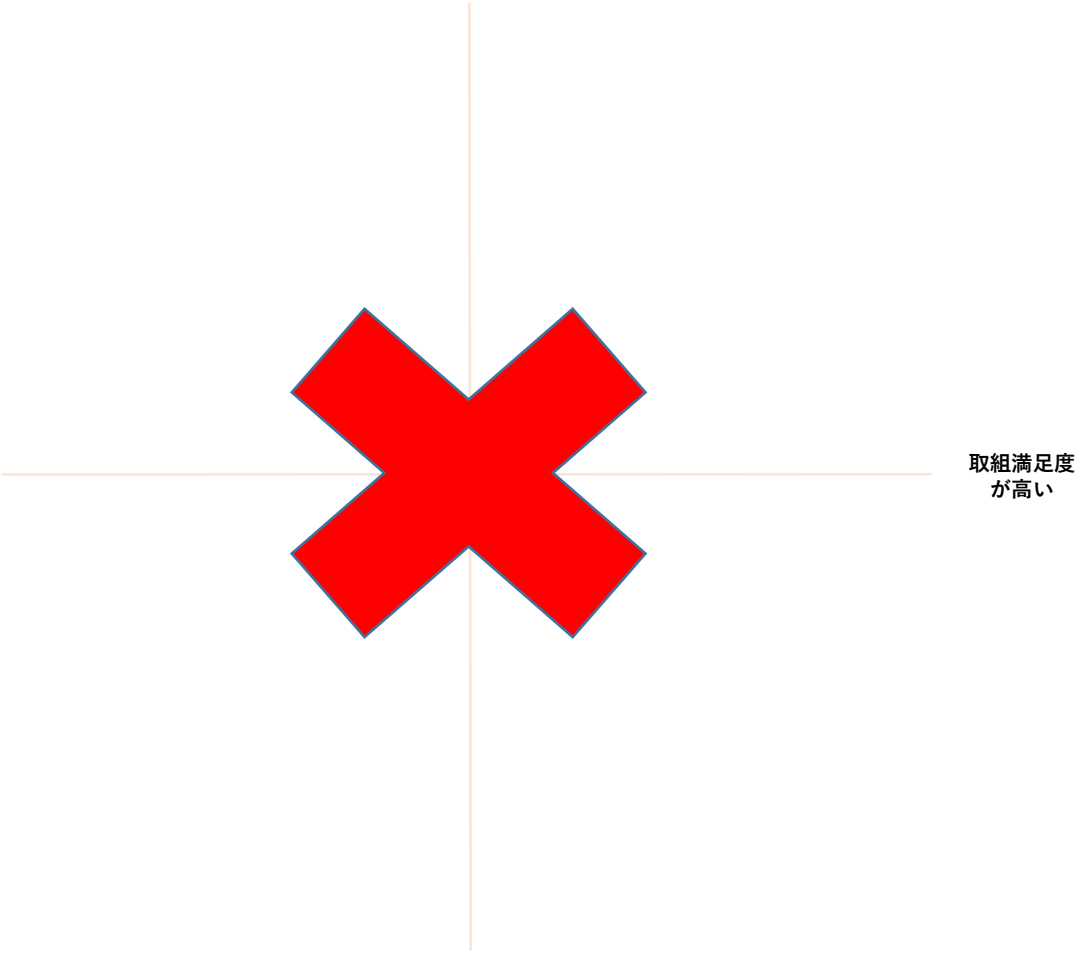
普段の生活の中でみどりとふれあえる
24_02 緑化活動の活性化

施策満足度		
満足	不満足	どちらとも いえない わからない
51.7%	17.9%	30.4%
「決め手となった取り組みはない」と 回答した人		
25.7%		

※回答数／全体数1,762

※満足の定義は、「感じている」「やや感
じている」を選択した人で、
不満足の定義は、「あまり感じていな
い」「感じていない」を選択した人

※各施策における取組満足度や関心・期待度・
ニーズを分析するものであり、異なる施策
間での比較を行うものではありません。



施策の分析

※取り組みが1つのためマトリクス分析不可
・緑化活動の推進

5. 評価を踏まえた今後の方向性

今後の方向性

- ・施策の方向性としては、緑地面積は減少したものの身近にみどりとふれあう環境があるとした人の満足度は昨年度と同様に高いことから、地域ごとの特性などに応じたゾーニングを行い、効果的・効率的な緑化の取り組みを進めていく。

1. 施策の概要

施策シート【25_01】

環境部

施策名称		ごみ発生抑制を最優先にした4Rの推進				
総合計画体系	基本目標等	5.自然と共生し、美しい環境を守り育てるまち				
	施策目標等	25.ごみを減らし、資源の循環が進むまち				
めざす姿（主観的満足度）		ごみ減量や資源循環が進んでいる				
概要		循環型社会の形成に向け、ごみの発生抑制に取り組みます。				
計画期間 中の 実施予定 時期	R6年度	R7年度		R8年度		
	R9年度					
	1. 次期一般廃棄物処理基本計画の策定 ○家庭用生ごみ処理機制度設計・実施		1. 次期一般廃棄物処理基本計画の策定 ○次期基本計画の策定		2. 4R活動の推進 ○リユース事業の本格実施 ○穂谷川清掃工場跡地活用に向けた基本構想の策定	
	2. 4R活動の推進 ○穂谷川清掃工場跡地活用の基本的な考え方の策定		2. 4R活動の推進 ○穂谷川清掃工場跡地活用に向けた基本構想の策定		5. DX等によるごみ収集の最適化 ○運行管理システム本格導入	
	3. 効率的なごみ収集処理の推進		4. 事業系ごみの減量指導と手数料の適正化 ○事業系ごみ処理手数料を120円/10kgから150円/10kgに改定			
4. 事業系ごみの減量指導と手数料の適正化						
5. DX等によるごみ収集の最適化						

2. 市民満足度、取り組み実績および施策指標の分析

市民満足度の分析

【満足度34.1%】

- ・年代別では、80歳以上が最も高く、45.0%である。最も低いのは、40歳台で28.6%であった。
- ・昨年度と比較すると6.8ポイント減少したものの、若者世代（24歳以下）では、0.3ポイントの減少に留まった。

取り組み実績および施策指標の分析

【取り組み実績】

- ・施策の進捗としては、7割以上の取り組みが計画通りに進めることができ、「2. 4 R 活動の推進」が一部未達成であるものの、概ね達成できている。

【施策指標】

- ・「ごみの資源化率」については未達成だが、それ以外の指標については、指標を達成している。

3. 具体的な取り組みの進捗と施策指標の実績

施策シート【25_01】－ 具体的な取り組み

環境部

施策名称	ごみ発生抑制を最優先にした4Rの推進
------	--------------------

1. 次期一般廃棄物処理基本計画の策定

取り組みの内容	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	担当課
次期一般廃棄物処理基本計画を策定し、資源循環施策を推進。	次期基本計画に盛り込む施策等の検討	・廃棄物減量等推進審議会へ諮問 ・次期基本計画の策定	—	—	循環型社会推進課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	取り組み結果	取り組み結果	取り組み結果	備考
・策定した第2次枚方市一般廃棄物処理基本計画に基づき、ごみ発生抑制を最優先にした4Rを推進していく。	次期基本計画に盛り込む施策等について、調査研究を行い検討を進めた。	・廃棄物減量等推進審議会へ諮問し、答申を受けた。 ・第2次枚方市一般廃棄物処理基本計画を策定した。			
年度ごとの達成状況	○	◎			

※関連指標なし

施策シート[25_01]ー 具体的な取り組み

環境部

施策名称	ごみ発生抑制を最優先にした4Rの推進
------	--------------------

2. 4R活動の推進

取り組みの内容	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	担当課
・事業者と連携することにより、食品を必要とする団体等に無償で譲渡するフードドライブを実施。 ・家庭用電気式生ごみ処理機の購入補助制度を導入し、生ごみの減量を推進。 ・粗大ごみから選別した再生可能なリユース品や、市民から提供されたリユース品の受付、保管及び展示、譲渡・販売等を行い、再利用の推進による4Rの普及啓発を図る。 ・資源となる鉄類等の再資源化を推進。 ・再生資源集団回収報償金の見直し。 ・公共施設に給水スポットを設置し、自宅から飲料を持参するところからさらに1歩進んだ行動変容を引き起こす。 ・ごみ焼却場としての役割を終える穂谷川清掃工場について、跡地活用に向けた取り組みを推進。	・フードドライブの実施 ・家庭用生ごみ処理機制度設計・実施 ・リユース事業実証実験 ・ごみの再資源化 ・再生資源集団回収報償金普及・啓発、提出様式の見直し・WEB申請の検討	・再生資源集団回収報償金様式改訂、報償金の見直しの検討 ・ごみの再資源化 ・鉄類等のさらなる再資源化 ・給水スポットの設置・検証 ・穂谷川清掃工場跡地活用の基本的な考え方の策定	・再生資源集団回収報償金様式改訂、報償金の見直しの検討 ・家庭用生ごみ処理機補助制度の要綱等の見直しの検討 ・家庭用生ごみ処理機補助制度の検証 ・リユース事業本格実施 ・穂谷川清掃工場跡地活用に向けた基本構想の策定	継続 ・建築計画の検討・既存施設の解体設計・土壌汚染調査	環境政策課、循環型社会推進課、穂谷川資源循環センター
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	取り組み結果	取り組み結果	取り組み結果	備考
・循環型社会を構築するために、市民・事業者の4R（リフューズ、リデュース、リユース、リサイクル）の意識を醸成する必要がある。 ・引き続き、ごみの発生抑制を最優先に、4Rの取り組みを推進する。 ・穂谷川清掃工場の跡地活用について引き続き検討を進める。	・事業者と連携してフードドライブを実施した。 ・家庭用電動生ごみ処理補助制度を実施した。 ・事業者と連携してリユース事業の実証実験を実施した。 ・分別収集や選別処理により、排出されたごみから資源物を回収し、リサイクルを実施した。 ・再生資源集団回収報償金制度の普及・啓発を実施するとともに、登録内容の変更等の手続きにWEB申請を導入した。	・再生資源集団回収報償金様式改訂、報償金の見直しの検討を進めた。 ・分別収集や選別処理により、排出されたごみから資源物を回収し、リサイクルを実施した。 ・市が処理しないごみとしていた一部の金属製品の受け入れを開始し、鉄類等の再資源化を促進した。 ・KTM河本工業総合体育館（市立総合体育館）に給水スポットの設置し、利用量などを調査した。 ・「穂谷川清掃工場跡地活用の基本的な考え方」を策定した。			
年度ごとの達成状況	○	○			

施策シート[25_01]－ 施策指標

環境部

施策名称		ごみ発生抑制を最優先にした4Rの推進						
指標名	指標の説明	R6	R7	R8	R9	単位	担当課	関連する取り組み等
4Rの推進	生ごみの減量・減容に取り組む市民の数 (延べ人数)	44	132	280	308	人	循環型社会推進課	2. 4R活動の推進
各年度の実績		126	235 (当年度109)			人	備考	
【施策指標の分析 R6】 令和6年度の目標値を達成した。 引き続き、生ごみ堆肥講習会や家庭用電気式生ごみ処理機購入補助事業等により、4Rの推進に取り組んでいく。								
【施策指標の分析 R7】 令和7年度の目標値を達成した。 引き続き、生ごみ堆肥講習会や家庭用電気式生ごみ処理機購入補助事業等により、4Rの推進に取り組んでいく。								
家庭部門における温室効果ガス排出量 (t-CO2)の削減量	ペットボトル（500mL）の使用削減による 家庭部門における温室効果ガス排出量(t-CO2)の削減量	—	CO2換算 1.19t-CO2 (削減量 10000本)	CO2換算 1.43t-CO2 (削減量 12000本)	CO2換算 1.43t-CO2 (削減量 12000本)	t-CO2	循環型社会推進課	2. 4R活動の推進
各年度の実績		—	CO2換算 1.40t-CO2 (削減量 11800本)			t-CO2	備考	
【施策指標の分析 R6】 公共施設に給水機を設置することで、プラスチックごみの削減を図り、家庭部門における温室効果ガス排出量の削減に取り組んでいく。								
【施策指標の分析 R7】 令和7年度の目標値を達成した。 給水機をより多くの市民に活用していただけるよう周知活動に取り組んでいく。								

施策シート【25_01】－ 具体的な取り組み

環境部

施策名称	ごみ発生抑制を最優先にした4Rの推進
------	--------------------

3. 効率的なごみ収集処理の推進

取り組みの内容	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	担当課
平成31年1月に策定した「ごみ収集業務体制見直し実施計画」に基づき、令和6年度を最終年度とし、段階的に一般ごみ収集業務の委託化を進め、2人乗務体制に変更。	直営車両5台を委託化し、2人乗務に変更 ※ 委託率80%	—	—	—	環境事業課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	取り組み結果	取り組み結果	取り組み結果	備考
人件費等、物価高騰に伴う委託料の増加 一般ごみ収集業務委託の継続	「ごみ収集業務体制見直し実施計画」に基づく一般ごみ収集業務の委託化及び2人乗務体制を完了 ※委託率80%	—			
年度ごとの達成状況	◎				

※関連指標なし

施策シート【25_01】－ 具体的な取り組み

環境部

施策名称	ごみ発生抑制を最優先にした4Rの推進
------	--------------------

4. 事業系ごみの減量指導と手数料の適正化

取り組みの内容	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	担当課
事業系ごみの減量指導を行うとともに、廃棄物処理法による排出事業者責任の考え方にに基づき、ごみ処理原価に一致したものとなるよう事業系ごみ処理手数料の適正化を推進。	多量排出事業者への減量指導	多量排出事業者への減量指導、事業系ごみ処理手数料を120円/10kgから150円/10kgに改定	継続	継続	循環型社会推進課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	取り組み結果	取り組み結果	取り組み結果	備考
・事業者が食品ロスの削減等のさらなる4Rに取り組めるような、施策が必要である。 ・引き続き、多量排出事業者への立入指導を行うとともに、一般廃棄物収集運搬許可業者と連携した事業系ごみ減量・リサイクルの取り組みを進める。	多量排出事業者に対して一般廃棄物管理責任者の選任及び事業系一般廃棄物減量等計画書の提出を求めた。また、一部の事業者に立入を行い、ごみの排出状況や減量やリサイクルの取り組みの状況を確認し、助言や指導を実施した。	・多量排出事業者に対して一般廃棄物管理責任者の選任及び事業系一般廃棄物減量等計画書の提出を求めた。また、一部の事業者に立入を行い、ごみの排出状況や減量やリサイクルの取り組みの状況を確認し、助言や指導を実施した。 ・令和7年12月1日から事業系ごみ処理手数料を改定（120円/10kg→150円/10kg）。令和7年8・9月に排出事業者へ周知リーフレットを配布、その他、広報ひらかた、HP及びSNSにて事前に周知を実施した。			
年度ごとの達成状況	◎	◎			

施策シート【25_01】ー 施策指標

環境部

施策名称	ごみ発生抑制を最優先にした4Rの推進
------	--------------------

指標名	指標の説明	R6	R7	R8	R9	単位	担当課	関連する取り組み等
多量排出事業者数	事業活動に伴って月平均2.5トン以上の一般廃棄物を排出する事業者の数	80	79	78	77	社	循環型社会推進課	4. 事業系ごみの減量指導と手数料の適正化
各年度の実績		80	73			社	備考	
【施策指標の分析 R6】 令和6年度の目標値を達成した。 引き続き、多量排出事業者への減量指導に取り組んでいく。								
【施策指標の分析 R7】 令和7年度の目標値を達成した。 引き続き、多量排出事業者への減量指導に取り組んでいく。								

施策名称	ごみ発生抑制を最優先にした4Rの推進
------	--------------------

5. D X等によるごみ収集の最適化

取り組みの内容	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	担当課
ごみ収集業務において効率的な収集データ等の管理を行う運行管理システムを導入。	・システムの構築	・資源収集車両8台による2年間のシステム実証開始 ・機能の確認とデータ管理の構築 ・仕様書作成 ・積算資料作成	・新コースや前年度のデータ移行に問題が無いか検証 ・システム全般の最終確認 ・予算確保 ・システム更新	運行管理システム本格導入	環境事業課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	取り組み結果	取り組み結果	取り組み結果	備考
R9年度の本格導入に向け様々な角度から運行管理システムの検証を行う。	・関係各課との調整済 ・システム会社との綿密な打ち合わせを行った。	システム導入に向け実証を実施するとともに、検証内容を踏まえた仕様書を作成した。また、積算資料作成のため参考見積徴取を行った。			
年度ごとの達成状況	◎	◎			

指標名	指標の説明	R6	R7	R8	R9	単位	担当課	関連する取り組み等
ごみ収集管理に係る業務時間数	収集時間、走行距離、回送距離、作業時間、間違いごみ内容等の記録のデータ化、委託車両の巡視等に係る業務時間数	7,472	6,986	6,986	0	時間	環境事業課	5. D X等によるごみ収集の最適化
各年度の実績		7,472	6,986			時間	備考	
【施策指標の分析 R6】 ・セキュリティ関連については、DX推進課指導のもと適切に対応出来た。 ・今後は運行管理システムの本格導入に向け検証を進めていく。								
【施策指標の分析 R7】 ・データ入力に係る時間が削減され令和7年度の目標を達成した。 ・引き続き、運行管理システムの本格導入に向け検証を進めていく。								

取り組みに紐づかない指標

施策シート【25_01】ー 施策指標

環境部

施策名称	ごみ発生抑制を最優先にした4Rの推進
------	--------------------

指標名	指標の説明	R6	R7	R8	R9	単位	担当課	関連する取り組み等
市民1人当たりのごみの排出量	ごみの排出量（一日あたり）／人口	784	785	711	705	g/人・日	循環型社会推進課	-
各年度の実績		724	714			g/人・日	備考	
【施策指標の分析 R6】 令和6年度の目標値を達成した。 引き続き、4Rの取り組みを推進し、市民一人ひとりの行動変容を促していく。								
【施策指標の分析 R7】 令和7年度の目標値を達成した。 引き続き、4Rの取り組みを推進し、市民一人ひとりの行動変容を促していく。							令和8年度以降の指標目標値について、第2次枚方市一般廃棄物処理基本計画（令和8年3月策定）を踏まえて修正。	
最終処分量	焼却灰などを最終処分場で埋め立てた量	10,591	10,649	9,509	9,373	t	循環型社会推進課	枚方市一般廃棄物処理基本計画
各年度の実績		9,782	10,038			t	備考	
【施策指標の分析 R6】 令和6年度の目標値を達成した。 引き続き、4Rの取り組みを推進し、最終処分量の削減に取り組んでいく。								
【施策指標の分析 R7】 令和7年度の目標値を達成した。 引き続き、4Rの取り組みを推進し、最終処分量の削減に取り組んでいく。							令和8年度以降の指標目標値について、第2次枚方市一般廃棄物処理基本計画（令和8年3月策定）を踏まえて修正。	

取り組みに紐づかない指標

施策シート【25_01】－ 施策指標

環境部

施策名称		ごみ発生抑制を最優先にした4Rの推進						
指標名	指標の説明	R6	R7	R8	R9	単位	担当課	関連する取り組み等
ごみの資源化率	ごみを資源化した量／ごみの排出量	19.4	19.4	(市の資源化量 9,737t)	(市の資源化量 9,958t)	%	循環型社会推進課	枚方市一般廃棄物処理基本計画
各年度の実績		17.5	17.0			%	備考	
【施策指標の分析 R6】 令和6年度の目標値を達成できなかった。 ごみの排出量が減少していることから、資源物となるごみの排出も減少していることや、 ペーパーレス化といった社会情勢の変化などが影響していると考えられる。								
【施策指標の分析 R7】 令和7年度の目標値を達成できなかった。ペーパーレス化といった社会情勢の変化など、 資源化できるごみの排出量が減少していることが主な要因と考えられる。 一方で、令和7年度に実施したごみの組成分析調査で、市民が排出する「一般ごみ」 (焼却するごみ)の中に、「資源ごみ」として分別して排出してもらえばリサイクルできる ごみが20%以上含まれていることがわかった。ごみの分別の徹底を図ることで、資源 化量の増加を目指していく。							令和8年度以降の指標について、第2次枚方市一般廃棄物処理基本計画（令和8年3月策定）を踏まえて、市に入ってきたごみをどれだけ資源化できたのかを表す「市の資源化量」へと変更し、市の資源化の取り組みを最大限、評価できる指標とする。	
ごみの焼却量	本市の清掃工場において焼却処理をしたごみの量	89,288	88,844	81,431	80,121	t	循環型社会推進課	枚方市一般廃棄物処理基本計画
各年度の実績		84,051	83,051			t	備考	
【施策指標の分析 R6】 令和6年度の目標値を達成した。 引き続き、4Rの取り組みを推進し、ごみの焼却量の削減に取り組んでいく。								
【施策指標の分析 R7】 令和7年度の目標値を達成した。 引き続き、4Rの取り組みを推進し、ごみの焼却量の削減に取り組んでいく。							令和8年度以降の指標目標値について、第2次枚方市一般廃棄物処理基本計画（令和8年3月策定）を踏まえて修正。	

4. 取組満足度と関心・期待度・ニーズの4象限マトリクス分析

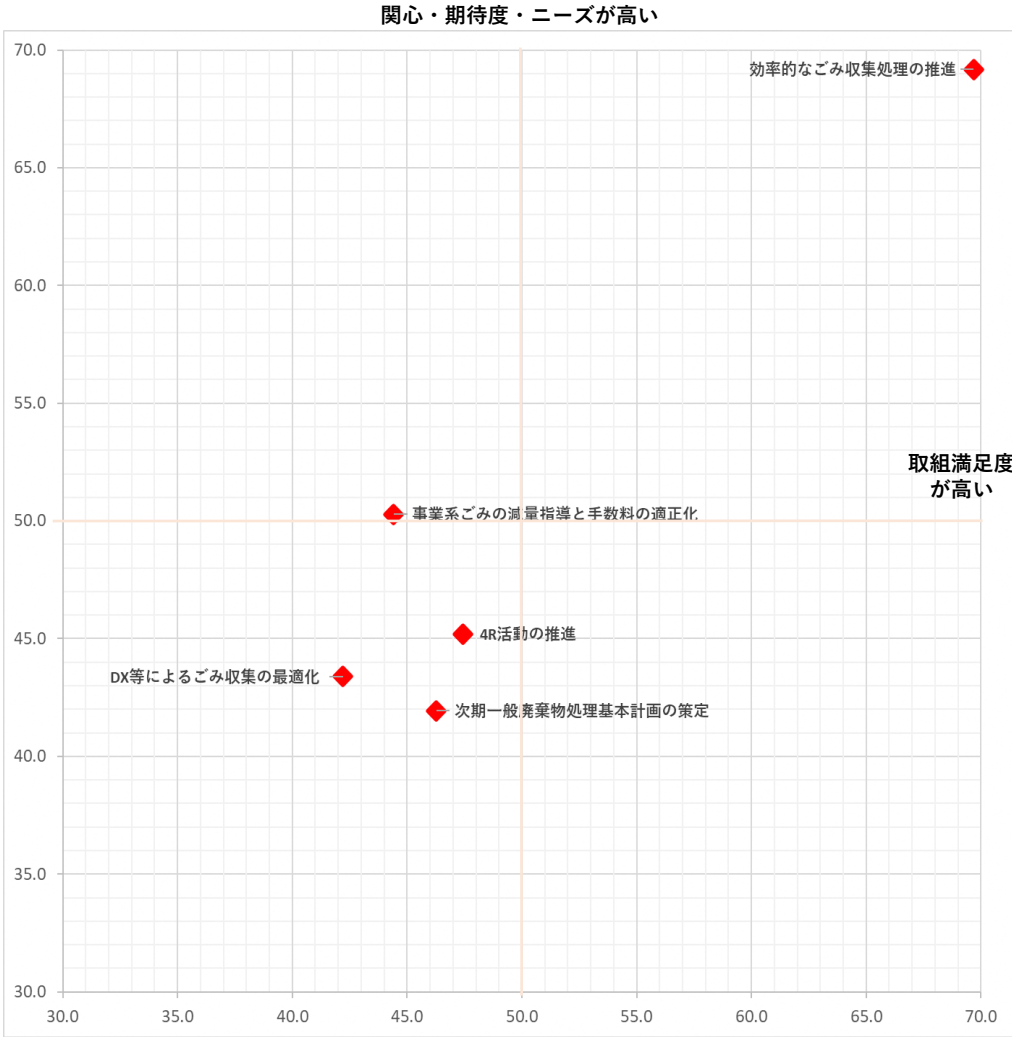
ごみ減量や資源循環が進んでいる
25_01 ごみ発生抑制を最優先にした4 Rの推進

施策満足度		
満足	不満足	どちらとも いえない わからない
34.1%	15.7%	50.2%
「決め手となった取り組みはない」と 回答した人		
39.4%		

※回答数／全体数1,762

※満足の定義は、「感じている」「やや感じている」を選択した人で、
不満足の定義は、「あまり感じていない」「感じていない」を選択した人

※各施策における取組満足度や関心・期待度・ニーズを分析するものであり、異なる施策間での比較を行うものではありません。



目指すべき姿
(施策満足度)『ごみ減量や資源循環が進んでいる』に紐づく全取り組み⇒青丸●

上記のうち施策シート『25_01 ごみ発生抑制を最優先にした4 Rの推進』に紐づく取り組み⇒赤ダイヤ◆

施策の分析

- ・「3. 効率的なごみ収集処理の推進」の関心・期待度・ニーズと取組満足度はともに高い。
- ・「2. 4 R 活動の推進」は関心・期待度・ニーズと取組満足度はともに平均的である。
- ・「1. 次期一般廃棄物処理基本計画の策定」の関心・期待度・ニーズは低く、取組満足度は平均的である。
- ・「4. 事業系ごみの減量指導と手数料の適正化」の関心・期待度・ニーズは平均的であるが、取組満足度は低い。
- ・「5. DX等によるごみ収集の最適化」は関心・期待度・ニーズと取組満足度はともに低い。

5. 評価を踏まえた今後の方向性

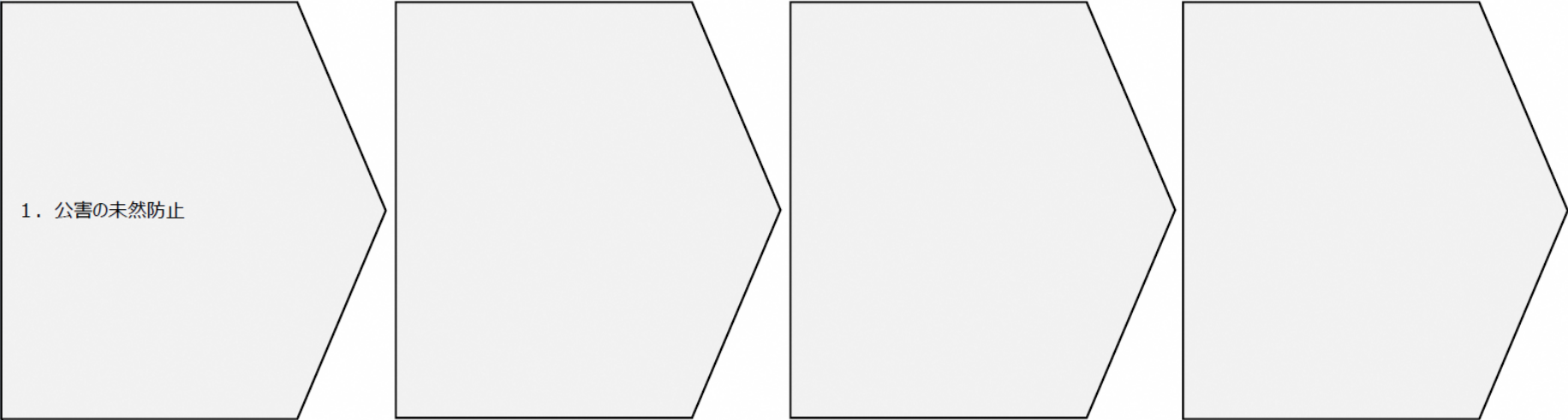
今後の方向性

- ・施策全体の方向性としては、第2次枚方市一般廃棄物処理基本計画（令和8年3月策定）に基づき、ごみ発生を抑制するための4Rの取り組みをさらに推進していくとともに、引き続き事業者と市民へごみの発生抑制への意識醸成を積極的に行っていく。
- ・「3. 効率的なごみ収集処理の推進」については、関心・期待度・ニーズと取組満足度ともに高いことから、ごみ収集の取り組みにあたっては、市民ニーズの把握に努め、より効率的・効果的な運用を目指していく。

1. 施策の概要

施策シート【26_01】

環境部

施策名称		大気・土壌汚染等の公害の未然防止		
総合計画体系	基本目標等	5.自然と共生し、美しい環境を守り育てるまち		
	施策目標等	26.安全で良好な生活環境が確保されたまち		
めざす姿（主観的満足度）		安全で良好な生活環境が確保されている		
概要		大気・土壌汚染等の公害の未然防止を図り、良好な生活環境を確保する。		
計画期間 中の 実施予定 時期	R6年度			

2. 市民満足度、取り組み実績および施策指標の分析

市民満足度の分析

【満足度38.6%】

- ・年代別では、20歳台が最も高く、56.5%である。最も低いのは、70歳台で36.9%であった。
- ・昨年度と比較すると全体では、8.6ポイント減少したが、若者世代（24歳以下）では、7.4ポイント上昇した。

取り組み実績および施策指標の分析

【取り組み実績】

- ・施策としては、「1. 公害の未然防止」は取り組みが計画通りに進めることができている。

【施策指標】

- ・「環境基準（大気・水質・騒音）の達成状況」は未達成だが、目標には近づいている。

3. 具体的な取り組みの進捗と施策指標の実績

施策シート[26_01]－ 具体的な取り組み

環境部

施策名称	大気・土壌汚染等の公害の未然防止
------	------------------

1. 公害の未然防止

取り組みの内容	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	担当課
市内の大気質の測定及び河川等における水質の測定並びに市内における環境騒音の測定。	・大気汚染測定局（一般局・自排局）での大気汚染物質に係る大気質の測定 ・市内河川等における水質の測定 ・道路沿道及び一般地域における環境騒音の測定	継続	継続	継続	環境指導課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	取り組み結果	取り組み結果	取り組み結果	備考
引き続き、市内の大気質、河川等における水質、環境騒音の測定を行っていく。	・大気汚染測定局で大気汚染物質に係る大気質の測定を行った。 ・市内河川等において水質の測定を行った。 ・道路沿道及び一般地域において環境騒音の測定を行った。	・大気汚染測定局で大気汚染物質に係る大気質の測定を行った。 ・市内河川等において水質の測定を行った。 ・道路沿道及び一般地域において環境騒音の測定を行った。			
年度ごとの達成状況	◎	◎			

指標名	指標の説明	R6	R7	R8	R9	単位	担当課	関連する取り組み等
環境基準（大気・水質・騒音）の達成状況	環境監視による大気・水質・騒音の環境基準達成度	100	100	100	100	%	環境指導課	1. 公害の未然防止
各年度の実績		95.2	95.6			%	備考	
【施策指標の分析 R6】 令和6年度の目標値を達成する見込みである。 引き続き、大気・水質・騒音の環境監視に取り組んでいく。								
【施策指標の分析 R7】 令和7年度の目標値を達成する見込みである。 引き続き、大気・水質・騒音の環境監視に取り組んでいく。								

4. 取組満足度と関心・期待度・ニーズの4象限マトリクス分析

関心・期待度・ニーズが高い

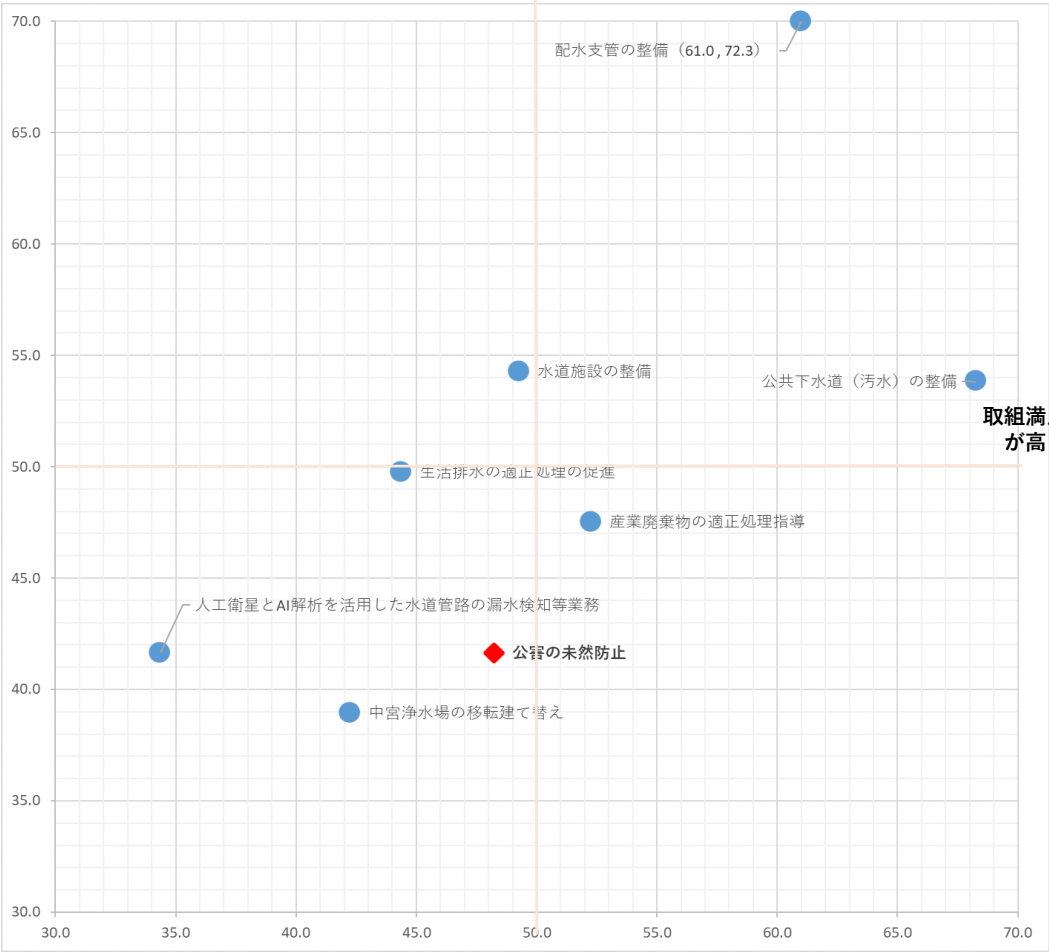
安全で良好な生活環境
26_01 大気・土壌汚染等の公害の未然防止

施策満足度		
満足	不満足	どちらとも いえない わからない
38.6%	9.4%	52.0%
「決め手となった取り組みはない」と回答した人		
41.0%		

※回答数／全体数1,762

※満足の定義は、「感じている」「やや感じている」を選択した人で、
不満足の定義は、「あまり感じていない」「感じていない」を選択した人

※各施策における取組満足度や関心・期待度・ニーズを分析するものであり、異なる施策間での比較を行うものではありません。



目指すべき姿
(施策満足度)『安全で良好な生活環境』に紐づく全取り組み⇒青丸●

上記のうち施策シート『26_01 大気・土壌汚染等の公害の未然防止』に紐づく取り組み⇒赤ダイヤ◆

施策の分析

- ・「1. 公害の未然防止」は取組満足度は平均的だが、関心・期待度・ニーズは低い。

5. 評価を踏まえた今後の方向性

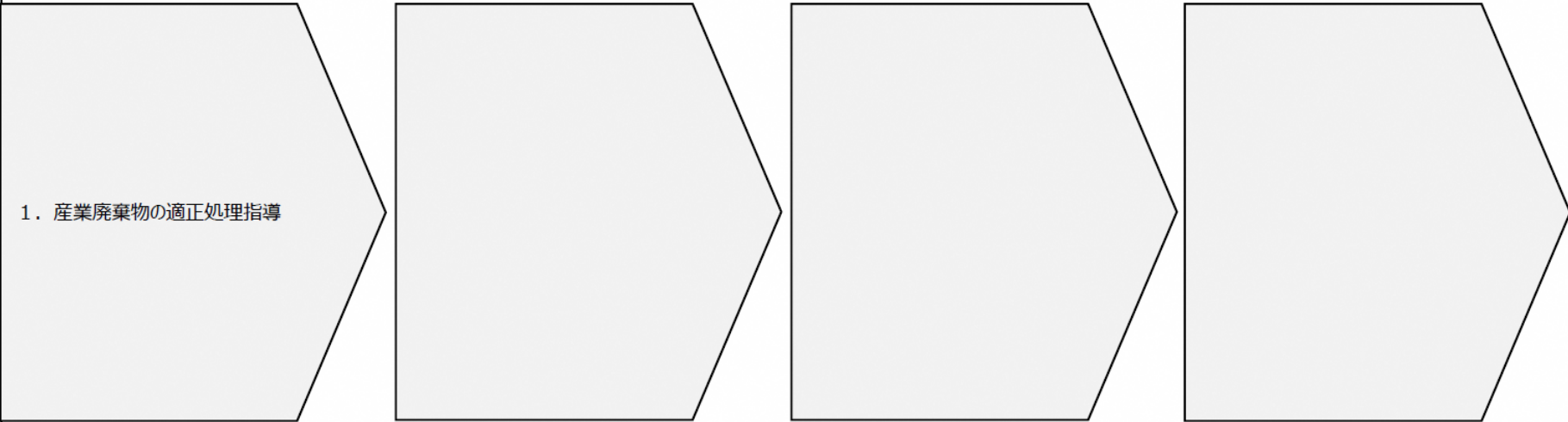
今後の方向性

- ・施策の方向性としては、良好な生活環境を確保するため、引き続き、市内の大気質、河川等における水質、環境騒音の測定を行い、各基準の達成に向けた取り組みにつなげていく。

1. 施策の概要

施策シート【26_02】

環境部

施策名称		産業廃棄物などの発生抑制や適性処理の推進		
総合計画体系	基本目標等	5.自然と共生し、美しい環境を守り育てるまち		
	施策目標等	26.安全で良好な生活環境が確保されたまち		
めざす姿（主観的満足度）		安全で良好な生活環境が確保されている		
概要		産業廃棄物などの発生抑制や適性処理を推進し、良好な生活環境を確保する。		
計画期間 中の 実施予定 時期	R6年度			
		R7年度	R8年度	R9年度

2. 市民満足度、取り組み実績および施策指標の分析

市民満足度の分析

【満足度38.6%】

- ・年代別では、20歳台が最も高く、56.5%である。最も低いのは、70歳台で36.9%であった。
- ・昨年度と比較すると全体では、8.6ポイント減少したが、若者世代（24歳以下）では、7.4ポイント上昇した。

取り組み実績および施策指標の分析

【取り組み実績】

- ・施策の進捗としては、「1. 産業廃棄物の適正処理指導」は計画通りに進めることができおり、目標達成に向け推進している。

【施策指標】

- ・指標については、測定が可能な指標については、すべて目標値を達成している。

3. 具体的な取り組みの進捗と施策指標の実績

施策シート[26_02]－ 具体的な取り組み

環境部

施策名称	産業廃棄物などの発生抑制や適性処理の推進
------	----------------------

1. 産業廃棄物の適正処理指導

取り組みの内容	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	担当課
産業廃棄物を処理する事業者に対し、法令に従った適正処理の指導を実施。	・産業廃棄物処理業者に対し立入検査を行って適正処理に係る指導 ・排出事業者及びPCB廃棄物保管事業者に対し産業廃棄物の適正処理について指導 ・当該事業を遂行できる人材育成を行う	継続	継続	継続	環境指導課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	取り組み結果	取り組み結果	取り組み結果	備考
引き続き産業廃棄物の適正処理が図られるためには継続した指導が必要である。	全ての産業廃棄物処理業者、PCB廃棄物新規保管事業者に対して立入検査等を行うことで適正処理指導を実施した。	全ての産業廃棄物処理業者、PCB廃棄物新規保管事業者に対して立入検査等を行うことで適正処理指導を実施した。			
年度ごとの達成状況	◎	◎			

施策シート[26_02]ー 施策指標

環境部

施策名称	産業廃棄物などの発生抑制や適性処理の推進
------	----------------------

指標名	指標の説明	R6	R7	R8	R9	単位	担当課	関連する取り組み等
産業廃棄物処理業者に対する優良認定の啓発率	産業廃棄物処理業者の全業者に対する優良認定の取得促進のために啓発した割合 (算出式：啓発した許可業者数／全許可業者数)	100	100	100	100	%	環境指導課	1. 産業廃棄物の適正処理指導
各年度の実績		100	100			%	備考	
【施策指標の分析 R6】 全ての産業廃棄物処理業者（19社）に対して立入検査を行い、優良認定の啓発を実施したため、目標を達成することができた。								
【施策指標の分析 R7】 全ての産業廃棄物処理業者（18社）に対して立入検査を行い、優良認定の啓発を実施したため、目標を達成することができた。								
全産業廃棄物処理業者に対する立入検査率	産業廃棄物処理の全業者に対する立入検査の割合（算出式：立入検査を行った業者数／全産業廃棄物処理業者）	100	100	100	100	%	環境指導課	1. 産業廃棄物の適正処理指導
各年度の実績		100	100			%	備考	
【施策指標の分析 R6】 全ての産業廃棄物処理業者（19社）に対して立入検査を行ったため、目標を達成することができた。								
【施策指標の分析 R7】 全ての産業廃棄物処理業者（18社）に対して立入検査を行ったため、目標を達成することができた。								

4. 取組満足度と関心・期待度・ニーズの4象限マトリクス分析

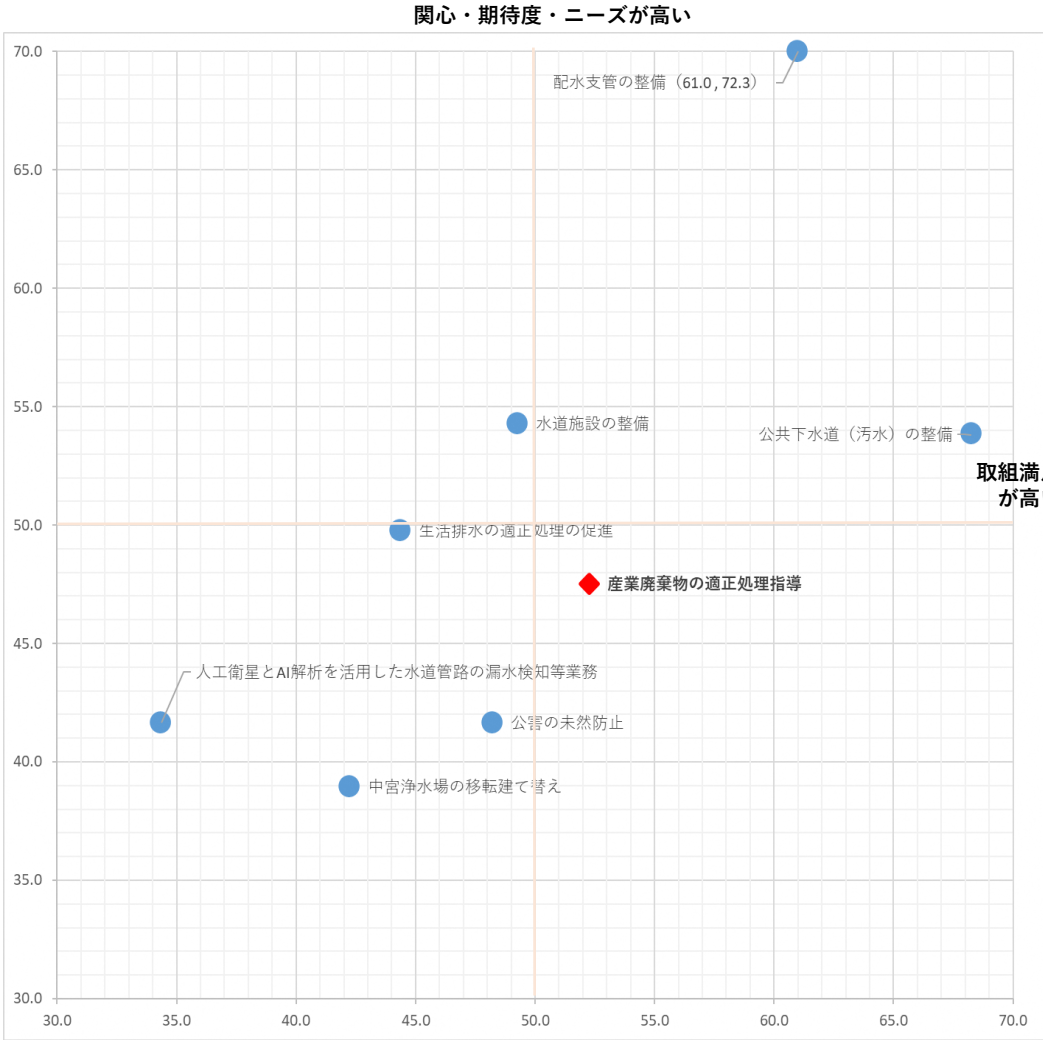
安全で良好な生活環境
26_02 産業廃棄物などの発生抑制
や適性処理の推進

施策満足度		
満足	不満足	どちらとも いえない わからない
38.6%	9.4%	52.0%
「決め手となった取り組みはない」と 回答した人		
41.0%		

※回答数／全体数1,762

※満足の定義は、「感じている」「やや感
じている」を選択した人で、
不満足の定義は、「あまり感じていな
い」「感じていない」を選択した人

※各施策における取組満足度や関心・期待・
ニーズを分析するものであり、異なる施策
間での比較を行うものではありません。



目指すべき姿
（施策満足
度）『安全で
良好な生活環
境』に紐づく
全取り組み⇒
青丸●

上記のうち施
策シート
『26_02 産
業廃棄物など
の発生抑制や
適性処理の推
進』に紐づく
取り組み⇒赤
ダイヤ◆

施策の分析

・「1. 産業廃棄物の適正処理指導」の関心・期待度・ニーズと取組満足度はともに平均的である。

5. 評価を踏まえた今後の方向性

今後の方向性

- ・ 施策の方向性としては、産業廃棄物の適正処理のための指導を行い、期限内の確実な処理完了に向け取り組んでいく。
- ・ 低濃度PCB廃棄物については、令和8年度末までに処理することが関連法で定められていることから、対象事業者への立ち入り指導を行うほか、関係機関と連携した取り組みにより、確実な処理完了を目指す。

1. 施策の概要

施策シート【26_03】

上下水道部

施策名称		安全で良質な水を将来にわたって安定的に供給			
総合計画体系	基本目標等	5.自然と共生し、美しい環境を守り育てるまち			
	施策目標等	26.安全で良好な生活環境が確保されたまち			
めざす姿（主観的満足度）		安全で良好な生活環境が確保されている			
概要		市民の生活や産業活動を支えるため、安全で良質な水を将来にわたって安定的に供給する。			
計画期間 中の 実施予定 時期	R6年度				
	1. 中宮浄水場の移転建て替え 2. 配水支管の整備 3. 水道施設の整備				
	R7年度				
	4. 人工衛星とAI解析を活用した 水道管路の漏水検知等業務				
	R8年度				
	R9年度				1. 中宮浄水場の移転建て替え ○通水開始予定

2. 市民満足度、取り組み実績および施策指標の分析

市民満足度の分析

【満足度38.6%】

- ・年代別では、20歳台が最も高く、56.5%である。最も低いのは、70歳台で36.9%であった。
- ・昨年度と比較すると全体では、8.6ポイント減少したものの、若者世代（24歳以下）では、7.4ポイント上昇した。

取り組み実績および施策指標の分析

【取り組み実績】

- ・施策の進捗としては一部未達成ではあるが、概ね計画通りに進めることができている。

【施策指標】

- ・施策指標については、一部未達成ではあるが、概ね指標を達成している。

3. 具体的な取り組みの進捗と施策指標の実績

施策シート【26_03】－ 具体的な取り組み

上下水道部

施策名称	安全で良質な水を将来にわたって安定的に供給
------	-----------------------

1. 中宮浄水場の移転建て替え

取り組みの内容	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	担当課
老朽化が進み耐震性が不足する中宮浄水場の移転建て替えに取り組む。	膜ろ過棟・前処理施設築造	・膜ろ過棟、前処理施設、薬品貯蔵棟、濃縮槽築造 ・プラント工事 ・シールド工事	・濃縮槽築造 ・プラント工事 ・シールド工事 ・外構工事 ・試験運転	・外構工事 ・試験運転 ・通水開始予定	浄水課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	取り組み結果	取り組み結果	取り組み結果	備考
引き続き、老朽化が進み耐震性が不足する中宮浄水場の移転建て替えに取り組む。	膜ろ過棟・前処理施設の築造に取り組んだ。	膜ろ過棟・前処理施設の築造に取り組んだ。 プラント工事及びシールド工事に着手した。			
年度ごとの達成状況	◎	○			

指標名	指標の説明	R6	R7	R8	R9	単位	担当課	関連する取り組み等
耐震性能を有する浄水施設の割合	耐震対策の施された浄水施設能力／全浄水施設能力	0	0	0	84.6	%	浄水課	1. 中宮浄水場の移転建て替え
各年度の実績		0	0			%	備考	
【施策指標の分析 R6】 令和9年度の工事完成をめざし、膜ろ過棟・前処理施設の築造に取り組んでいるため、令和6年度末の浄水施設の耐震化率は0%である。								
【施策指標の分析 R7】 令和9年度の工事完成をめざし、膜ろ過棟・前処理施設の築造に取り組んでいるため、令和7年度末の浄水施設の耐震化率は0%である。								
中宮浄水場更新事業 工事進捗率	工事進捗率（出来高率）	15	28	60	100	%	浄水課	1. 中宮浄水場の移転建て替え
各年度の実績		—	25			%	備考	
【施策指標の分析 R6】 —								
【施策指標の分析 R7】 当初の予定出来高に満たないものの概ね順調に工事を進めた。								

施策シート【26_03】－ 具体的な取り組み

上下水道部

施策名称	安全で良質な水を将来にわたって安定的に供給
------	-----------------------

2. 配水支管の整備

取り組みの内容	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	担当課
老朽管路の更新・耐震化	更新による管路の耐震化を実施	継続	継続	継続	上水道工務課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	取り組み結果	取り組み結果	取り組み結果	備考
引き続き「枚方市水道施設整備基本計画」に基づき、管路の更新・耐震化を行い安定した水道水の供給に取り組む。	送配水管更新耐震化工事を実施した。	配水支管更新耐震化工事を実施した。			
年度ごとの達成状況	◎	◎			

指標名	指標の説明	R6	R7	R8	R9	単位	担当課	関連する取り組み等
耐震性能を有する水道管路の割合	耐震性能を有する水道支管路延長距離 ／水道支管路延長距離	29.5	29.9	30.2	30.6	%	上水道工務課	2. 配水支管の整備
各年度の実績		29.6	30.2			%	備考	
【施策指標の分析 R6】 他企業と競合する一部事業については、事業間調整により次年度繰越となったものの、指標については目標通り達成できた。								
【施策指標の分析 R7】 他企業と競合する一部事業については、事業間調整により次年度繰越となったものの、指標については目標通り達成できた。								

施策シート【26_03】－ 具体的な取り組み

上下水道部

施策名称	安全で良質な水を将来にわたって安定的に供給
------	-----------------------

3. 水道施設の整備

取り組みの内容	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	担当課
送配水管を除く水道施設の更新・改良及び耐震化を実施	・磯島取水場更新基本設計 ・妙見山配水池更新基本設計 ・その他施設の更新・改良	妙見山配水池更新実施設計	磯島取水場更新実施設計	妙見山配水池更新工事	浄水課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	取り組み結果	取り組み結果	取り組み結果	備考
引き続き、水道施設の更新・改良及び耐震化に取り組む。	磯島取水場更新基本設計委託及び妙見山配水池更新基本設計委託の契約を締結した。また、田口山配水池受変電設備更新工事を実施した。	磯島取水場更新基本設計委託のうちR7年度に実施する項目及び妙見山配水池更新基本設計委託が完了した。また、高度浄水施設直流電源装置他更新工事を実施した。			
年度ごとの達成状況	○	○			

指標名	指標の説明	R6	R7	R8	R9	単位	担当課	関連する取り組み等
水道施設（送配水管を除く）の更新等実施件数	水道施設（送配水管を除く）の更新・改良及び耐震化に係る事業（設計・工事）実施件数	6	6	9	10	件数	浄水課	3. 水道施設の整備
各年度の実績		5	7			件数	備考	
【施策指標の分析 R6】 入札不調のため1件は契約に至らなかった。								
【施策指標の分析 R7】 当初の予定通り、水道施設の更新を実施した。								

施策シート【26_03】－ 具体的な取り組み

上下水道部

施策名称	安全で良質な水を将来にわたって安定的に供給
------	-----------------------

4. 人工衛星とAI解析を活用した水道管路の漏水検知等の推進

取り組みの内容	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	担当課
デジタル技術の導入を進め効率的に維持管理を実施	—	・衛星画像を用いた漏水検知業務委託 ・路面音聴業務委託	・路面音聴業務委託 ・【既存事業】漏水修繕を実施（直営・委託・請負）	・路面音聴業務委託 ・【既存事業】漏水修繕を実施（直営・委託・請負）	上下水道政策課 上水道保全課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	取り組み結果	取り組み結果	取り組み結果	備考
令和7年度から衛星画像を利用し、漏水の可能性のあるエリアを選出し、漏水検知を実施する。	令和7年度衛星画像を用いた漏水検知業務実施に向けた準備	衛星画像を用いた漏水検知業務委託を実施し、その結果に基づき、緊急輸送道路下と市南部地域を対象に音聴調査を実施した。			
年度ごとの達成状況	○	○			

指標名	指標の説明	R6	R7	R8	R9	単位	担当課	関連する取り組み等
緊急工事回数	市民からの通報等により緊急で工事した回数	—	4	2	2	回	上水道保全課	4. 人工衛星とAI解析を活用した水道管路の漏水検知等業務
各年度の実績		—	2			回	備考	
【施策指標の分析 R6】 —								
【施策指標の分析 R7】 目標は達成したので、今後も関係機関と協議も進めながら目標達成に向けた活用に取り組んでいく。								

4. 取組満足度と関心・期待度・ニーズの4象限マトリクス分析

関心・期待度・ニーズが高い

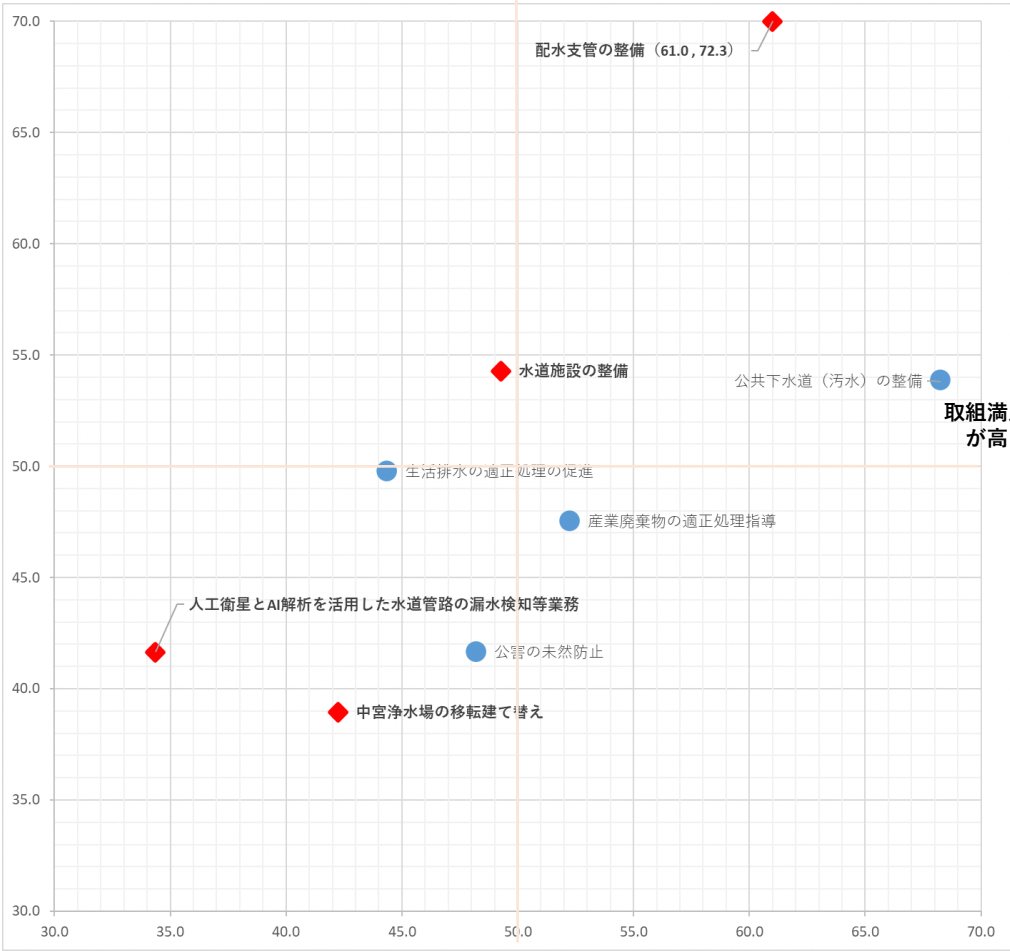
安全で良好な生活環境
26_03 安全で良質な水を将来にわたって安定的に供給

施策満足度		
満足	不満足	どちらとも いえない わからない
38.6%	9.4%	52.0%
「決め手となった取り組みはない」と 回答した人		
41.0%		

※回答数／全体数1,762

※満足の定義は、「感じている」「やや感じている」を選択した人で、
不満足の定義は、「あまり感じていない」「感じていない」を選択した人

※各施策における取組満足度や関心・期待度・ニーズを分析するものであり、異なる施策間での比較を行うものではありません。



目指すべき姿
(施策満足度)『安全で良好な生活環境』に紐づく全取り組み⇒青丸●

上記のうち施策シート『26_03 安全で良質な水を将来にわたって安定的に供給』に紐づく取り組み⇒赤ダイヤ◆

施策の分析

- ・「2. 配水支管の整備」の関心・期待度・ニーズ、取組満足度はともに高い。
- ・「3. 水道施設の整備」の関心・期待度・ニーズと取組満足度は平均的である。
- ・「1. 中宮浄水場の移転建て替え」「4. 人工衛星とAI解析を活用した水道管路の漏水検知等の推進」の関心・期待度・ニーズ、取組満足度はともに低い。

5. 評価を踏まえた今後の方向性

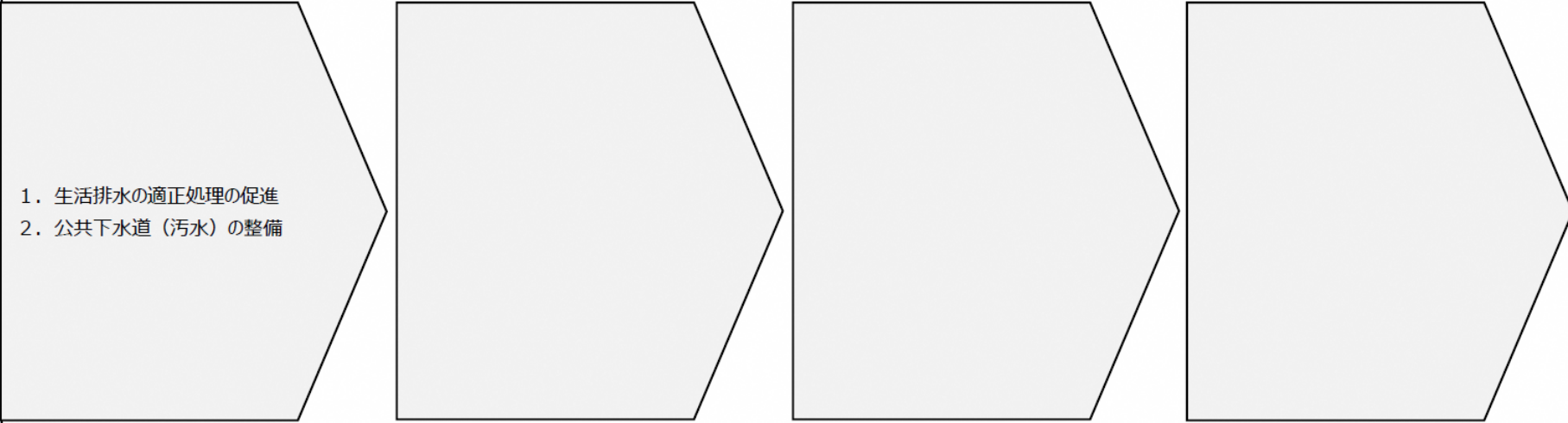
今後の方向性

・施策全体の方向性としては、老朽化が進む管路の更新・耐震化を行うとともに、管路の調査においては、衛星画像を用いた漏水検知業務委託の結果に基づく効率的な音聴調査の実施により、安全で良質な水を将来にわたって安定的に供給できるよう取り組む。

1. 施策の概要

施策シート【26_04】

保健所、環境部、上下水道部

施策名称		生活排水等の適正処理		
総合計画体系	基本目標等	5.自然と共生し、美しい環境を守り育てるまち		
	施策目標等	26.安全で良好な生活環境が確保されたまち		
めざす姿（主観的満足度）		安全で良好な生活環境が確保されている		
概要		河川や水路、池などの水質汚濁の防止を図るために、公共下水道の整備を促進するとともに生活排水等の適正処理を進める。		
計画期間 中の 実施予定 時期	R6年度			
		1. 生活排水の適正処理の促進 2. 公共下水道（污水）の整備		

2. 市民満足度、取り組み実績および施策指標の分析

市民満足度の分析

【満足度38.6%】

- ・年代別では、20歳台が最も高く、56.5%である。最も低いのは、70歳台で36.9%であった。
- ・昨年度と比較すると全体では、8.6ポイント減少したものの、若者世代（24歳以下）では、7.4ポイント上昇した。

取り組み実績および施策指標の分析

【取り組み実績】

- ・施策の進捗としては全体として、工事工程の遅れ等により一部未達成となっているものの、概ね達成できている。

【施策指標】

- ・指標については、測定が可能な指標については、すべて目標値を達成している。

3. 具体的な取り組みの進捗と施策指標の実績

施策シート【26_04】－ 具体的な取り組み

保健所、環境部、上下水道部

施策名称	生活排水等の適正処理
------	------------

1. 生活排水の適正処理の促進

取り組みの内容	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	担当課
公共下水道の整備を推進するとともに、公共下水道整備計画区域外においては、合併処理浄化槽による生活排水の適正処理を推進。	・公共下水道の整備及び接続の推進 ・浄化槽による適正処理の推進 ・市民に対する啓発活動	継続	継続	継続	保健衛生課、環境事業課、穂谷川資源循環センター、環境指導課、上下水道政策課、下水道管理課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	取り組み結果	取り組み結果	取り組み結果	備考
・公共下水道の老朽化した管渠などの適切な維持管理を行うとともに、浄化槽の維持管理が適正に実施されるよう指導・啓発に取り組む。 ・引き続き、一般廃棄物処理計画及び下水道事業各種計画に基づき生活排水の適正処理を推進する。	・整備により公共下水道処理区域を増加した。 ・下水道未接続家庭への下水道接続を啓発した。 ・広報ひらかたを活用して、下水道接続や合併浄化槽設置等の生活排水適正処理に関する啓発を実施した。 ・水環境学習会や生活排水の適正処理に関するパネル展示を実施した。	・整備により公共下水道処理区域を増加した。 ・下水道未接続家庭への下水道接続を啓発した。 ・広報ひらかたを活用して、下水道接続や合併浄化槽設置等の生活排水適正処理に関する啓発を実施した。 ・水環境学習会や生活排水の適正処理に関するパネル展示を実施した。			
年度ごとの達成状況	○	◎			

施策シート【26_04】－ 施策指標

保健所、環境部、上下水道部

施策名称	生活排水等の適正処理
------	------------

指標名	指標の説明	R6	R7	R8	R9	単位	担当課	関連する取り組み等
生活排水の適正処理率	生活排水の処理人口（公共下水道接続人口＋合併処理浄化槽処理人口等）／行政人口	98.5	98.6	99.2	99.4	%	循環型社会推進課	1．生活排水の適正処理の促進
各年度の実績		99.2	99.3			%	備考	
【施策指標の分析 R6】 令和 6 年度の目標値を達成した。 引き続き、生活排水の適正処理を推進に取り組んでいく。								
【施策指標の分析 R7】 一般廃棄物処理基本計画における生活排水の処理の目標である、令和 7 年度の生活排水適正処理率の目標値を達成する見込み。 引き続き、生活排水の適正処理を推進に取り組んでいく。							令和 8 年度以降の指標目標値について、第 2 次枚方市一般廃棄物処理基本計画（令和 8 年 3 月策定）を踏まえて修正。	

施策シート【26_04】－ 具体的な取り組み

保健所、環境部、上下水道部

施策名称	生活排水等の適正処理
------	------------

2. 公共下水道（污水）の整備

取り組みの内容	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	担当課
整備済み区域内に点在する未承諾地区や整備困難地区の解消に取り組みます。	公共下水道（污水）の整備	継続	継続	継続	上下水道政策課、下水道整備課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	取り組み結果	取り組み結果	取り組み結果	備考
杉責谷1丁目他4地区において、公共下水道工事を行い、内1地区において工程に遅れが生じ、繰越となった。今後は、早期完成に向け取り組みます。	・杉責谷1丁目他3地区において公共下水道への接続が可能となった。	東香里2丁目他1地区において公共下水道への接続が可能となった。			
年度ごとの達成状況	○	○			

指標名	指標の説明	R6	R7	R8	R9	単位	担当課	関連する取り組み等
公共下水道（污水）の人口普及率	公共下水道整備人口／行政人口	97.6	97.6	97.7	97.8	%	上下水道政策課、下水道整備課	2. 公共下水道（污水）の整備
各年度の実績		97.9	98.0			%	備考	
【施策指標の分析 R6】 概ね順調に取り組みを進めることができた。								
【施策指標の分析 R7】 概ね順調に取り組みを進めることができた。								

4. 取組満足度と関心・期待度・ニーズの4象限マトリクス分析

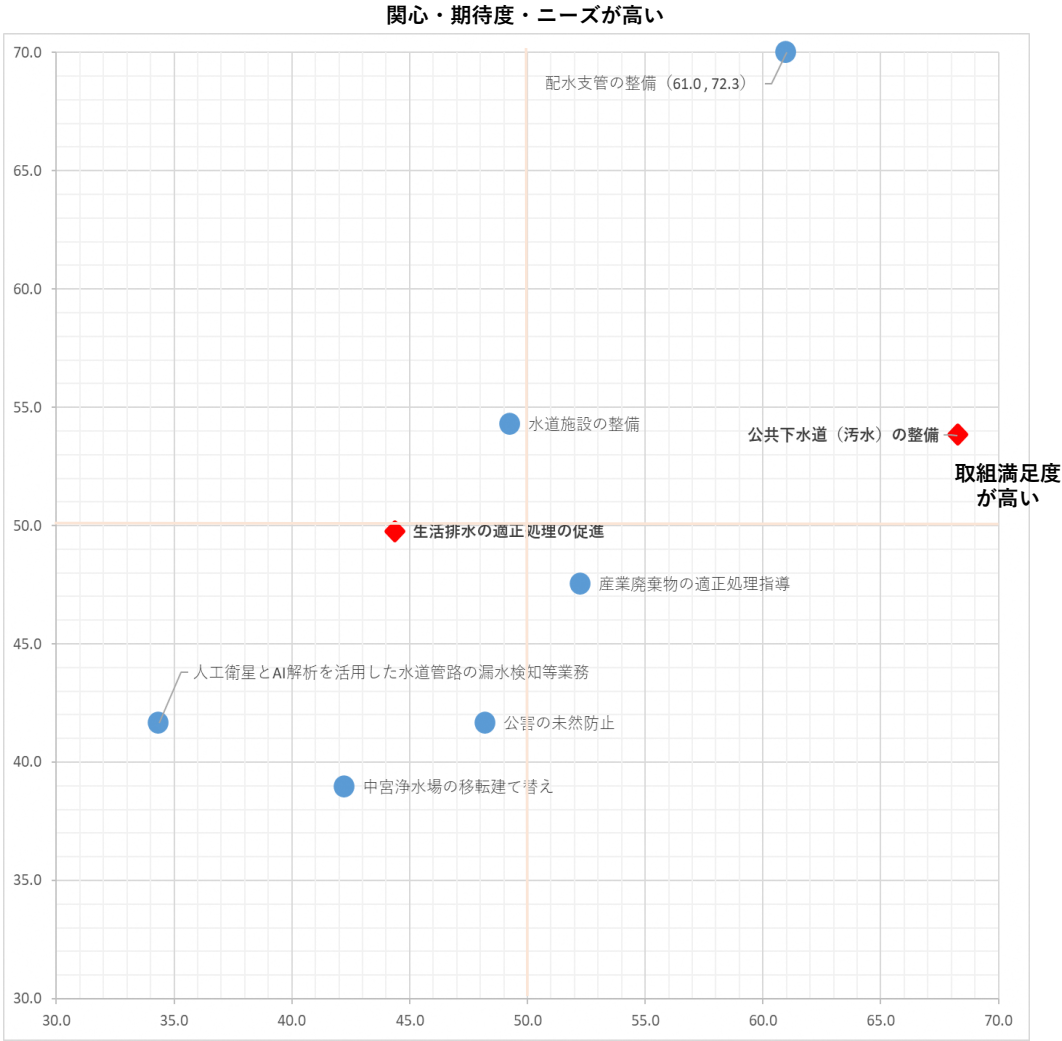
安全で良好な生活環境
26_04 生活排水等の適正処理

施策満足度		
満足	不満足	どちらとも いえない わからない
38.6%	9.4%	52.0%
「決め手となった取り組みはない」と 回答した人		
41.0%		

※回答数／全体数1,762

※満足の定義は、「感じている」「やや感じている」を選択した人で、
不満足の定義は、「あまり感じていない」「感じていない」を選択した人

※各施策における取組満足度や関心・期待度・ニーズを分析するものであり、異なる施策間での比較を行うものではありません。



目指すべき姿
(施策満足度)『安全で
良好な生活環境』に紐づく
全取り組み⇒
青丸●

上記のうち施策シート
『26_04 生活排水等の適
正処理』に紐づく取り組み
⇒赤ダイヤ◆

施策の分析

- ・「2. 公共下水道 (污水) の整備」の関心・期待度・ニーズと取組満足度はともに高い。
- ・「1. 生活排水の適正処理の促進」の関心・期待度・ニーズは平均的であり、取組満足度は低い。

5. 評価を踏まえた今後の方向性

今後の方向性

- ・施策全体の方向性としては、引き続き、下水道事業に関する計画に基づき生活排水の適正処理を推進するとともに、点在する公共下水道の未承諾地区や整備困難地区の解消に取り組み、安全で良好な生活環境の確保に向け取り組んでいく。
- ・「1. 生活排水の適正処理の促進」については、老朽化した管渠の適切な維持管理に取り組むとともに、浄化槽の維持管理が適正に実施されるよう指導・啓発を行う。

1. 施策の概要

施策シート【27_01】

環境部

施策名称	ゼロカーボンシティの推進			
総合計画体系	基本目標等 施策目標等	5.自然と共生し、美しい環境を守り育てるまち 27.地球温暖化対策に取り組むまち		
めざす姿（主観的満足度）	地球温暖化の取り組みが進んでいる			
概要	再生可能エネルギーの利用拡大、環境教育・学習の推進、省エネルギーの推進を図る。			
計画期間 中の 実施予定 時期	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度

2. 市民満足度、取り組み実績および施策指標の分析

市民満足度の分析

【満足度11.9%】

- ・年代別では、20歳台が最も高く、34.8%である。最も低いのは、70歳台で9.3%。
- ・昨年度と比較すると全体では、6.5ポイント減少したものの、子育て世代（25～44歳）では、0.6ポイントの減少に留まった。

取り組み実績および施策指標の分析

【施策指標】

- ・電気のエネルギー消費量は前年度に比べて減少しているものの、電気の使用から排出される二酸化炭素の排出係数が大きく増加したことにより、温室効果ガス排出量削減に関連する指標は目標値を下回っている。「枚方市地球温暖化対策実行計画」の指標についても目標値を下回っている。

3. 具体的な取り組みの進捗と施策指標の実績

施策シート【27_01】ー 具体的な取り組み

環境部

施策名称	ゼロカーボンシティの推進
------	--------------

1. 再エネ・省エネ・EV等の普及促進

取り組みの内容	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	担当課
ため池等を活用した再エネ導入のモデルを示すとともに、二酸化炭素排出量の削減に繋がる再エネ・省エネ・EV等の取り組みに対して補助金を交付。	・太陽光発電設置工事を実施し、地産地消の再エネ供給開始（モデル事業） ・再エネ・省エネ・EV等の導入支援補助の実施	継続	継続	継続	環境政策課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	取り組み結果	取り組み結果	取り組み結果	備考
・ため池等を活用した再エネ導入をモデルに、再エネの地産地消が拡大するように取り組みを推進する。 ・重点対策加速化事業の計画期間である令和10年度まで継続して補助を実施し、補助事業終了後も地域脱炭素の取り組みが広がるよう意識醸成を図る。	・招提新大池・今池にフロート型大型太陽光発電設備を設置し発電した電気をひらかたパークとくずはモールに供給開始 ・重点対策加速化事業を活用したひらかたゼロカーボン推進補助金事業を実施した。	・市内3池においてため池を活用した再生可能エネルギーの地産地消の取り組みに関する協定を締結 ・重点対策加速化事業を活用したひらかたゼロカーボン推進補助金事業を実施した。			
年度ごとの達成状況	◎	◎			

施策シート【27_01】－ 施策指標

環境部

施策名称	ゼロカーボンシティの推進
------	--------------

指標名	指標の説明	R6	R7	R8	R9	単位	担当課	関連する取り組み等
市域から排出される温室効果ガス排出量の削減率（2013年度比）	平成25（2013）年度比の市域から排出される温室効果ガス排出量の削減率	25.4 [R4年度実績]	28.1 [R5年度実績]	30.8 [R6年度実績]	33.5 [R7年度実績]	%	環境政策課	1. 再エネ・省エネ・EV等の普及促進
各年度の実績		22.5	25.1			%	備考	
【施策指標の分析 R6】 電気の使用から排出される二酸化炭素の排出係数が、目標の設定時に想定していた数値よりも大きく増加したことが目標未達成の主な要因と考えられる。								
【施策指標の分析 R7】 電気のエネルギー消費量は前年度に比べて減少しているものの、電気の使用から排出される二酸化炭素の排出係数が、目標の設定時に想定していた数値よりも大きく増加したことが目標未達成の主な要因と考えられる。								
市域から排出される温室効果ガス排出量の削減率（2020年度比）	令和2（2020）年度比の市域から排出される温室効果ガス排出量の削減率	6.8 [R4年度実績]	10.1 [R5年度実績]	13.5 [R6年度実績]	16.9 [R7年度実績]	%	環境政策課	1. 再エネ・省エネ・EV等の普及促進
各年度の実績		3.1	6.4			%	備考	
【施策指標の分析 R6】 電気の使用から排出される二酸化炭素の排出係数が、目標の設定時に想定していた数値よりも大きく増加したことが目標未達成の主な要因と考えられる。								
【施策指標の分析 R7】 電気のエネルギー消費量は前年度に比べて減少しているものの、電気の使用から排出される二酸化炭素の排出係数が、目標の設定時に想定していた数値よりも大きく増加したことが目標未達成の主な要因と考えられる。								

施策シート【27_01】－ 施策指標

環境部

施策名称	ゼロカーボンシティの推進
------	--------------

指標名	指標の説明	R6	R7	R8	R9	単位	担当課	関連する取り組み等
家庭部門における温室効果ガス排出量の削減率（2013年度比）	基準年度（平成25(2013)年度）比の家庭部門における温室効果ガス排出量の削減率	35.5 [R4年度実績]	39.3 [R5年度実績]	43.2 [R6年度実績]	47.0 [R7年度実績]	%	環境政策課	1. 再エネ・省エネ・EV等の普及促進
各年度の実績		27.8	30			%	備考	
【施策指標の分析 R6】 電気の使用から排出される二酸化炭素の排出係数が、目標の設定時に想定していた数値よりも大きく増加したこと、及び電気のエネルギー消費量が増加したことが目標未達成の主な要因と考えられる。								
【施策指標の分析 R7】 電気のエネルギー消費量は前年度に比べて減少しているものの、電気の使用から排出される二酸化炭素の排出係数が、目標の設定時に想定していた数値よりも大きく増加したことが目標未達成の主な要因と考えられる。								
家庭部門における温室効果ガス排出量の削減率（2020年度比）	令和2（2020）年度比の家庭部門における温室効果ガス排出量の削減率	10.7 [R4年度実績]	16.0 [R5年度実績]	21.3 [R6年度実績]	26.7 [R7年度実績]	%	環境政策課	1. 再エネ・省エネ・EV等の普及促進
各年度の実績		0.0	3.1			%	備考	
【施策指標の分析 R6】 電気の使用から排出される二酸化炭素の排出係数が、目標の設定時に想定していた数値よりも大きく増加したこと、及び電気のエネルギー消費量が増加したことが目標未達成の主な要因と考えられる。								
【施策指標の分析 R7】 電気のエネルギー消費量は前年度に比べて減少しているものの、電気の使用から排出される二酸化炭素の排出係数が、目標の設定時に想定していた数値よりも大きく増加したことが目標未達成の主な要因と考えられる。								

施策シート[27_01]ー 具体的な取り組み

環境部

施策名称	ゼロカーボンシティの推進
------	--------------

2. 電気の一括購入と再エネ導入

取り組みの内容	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	担当課
各施設の電気購入契約期間を統一化するとともに、契約を一本化。令和5年度に実施した「公共施設への再エネ設備導入可能性調査」の結果などをと、様々な再エネ導入手法や省エネ化の検討を行い、スケールメリットを活かした電気の一括購入と再生可能エネルギー・省エネ設備の導入などを一体的に実施。	・再生可能エネルギー導入 ・エネルギーマネジメント ・省エネ改修と電気の一括購入に向けた検討と事業者の選定	電気の一括購入と再生可能エネルギー及び省エネ設備の導入の段階的な実施	継続	継続	環境政策課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	取り組み結果	取り組み結果	取り組み結果	備考
・省エネ設備の導入としてLED改修を各対象施設所管課と調整の上、順次実施していく。 ・令和9年度のPPAによる太陽光発電導入に向けて検討等を進める。	事業実施に向けたサウンディング調査を実施(7事業者参加)。太陽光発電設備の可能性調査等を踏まえ、「電気の一括購入」「太陽光設置(PPA)」「LED改修」を一体のものとしてプロポーザル方式による公募を行い、附属機関の審査を経て事業者を選定した。	・省エネ設備の導入としてLED改修を7施設について実施した。 ・令和9年度のPPAによる太陽光発電導入に向けて検討等を進めた。			
年度ごとの達成状況	◎	◎			

施策シート【27_01】ー 施策指標

環境部

施策名称	ゼロカーボンシティの推進
------	--------------

指標名	指標の説明	R6	R7	R8	R9	単位	担当課	関連する取り組み等
市有建築物等における太陽光発電容量	市有建築物等における太陽光発電の総出力	1,421	1,546	1,671	1,796	kW	環境政策課	2. 電気の一括購入と既存施設への再エネ導入
各年度の実績		1,171	5,943			kW	備考	
【施策指標の分析 R6】 市有建築物への太陽光発電設備の導入に向けて、附属機関の審査を経て、事業者を選定した。								
【施策指標の分析 R7】 市有建築物への太陽光発電設備の導入に向けて、R6年度に選定した事業者と協議を行った。								

取り組みには紐づかない施策指標

施策シート【27_01】－ 施策指標

環境部

施策名称	ゼロカーボンシティの推進
------	--------------

指標名	指標の説明	R6	R7	R8	R9	単位	担当課	関連する取り組み等
令和12(2030)年度までに温室効果ガス総排出量を平成25(2013)年度比で51%以上削減	平成25(2013)年度比の市の事務事業から排出される温室効果ガス排出量の削減率 【削減量(※市の事務事業)/基準年度における市の事務事業に係る温室効果ガス排出量】	39.7	42.1	44.0	46.2	%	環境政策課	枚方市地球温暖化対策実行計画(事務事業編)
各年度の実績		17.2	44.4			%	備考	
【施策指標の分析 R6】 温室効果ガス排出量の約8割を占める電気の使用から排出される二酸化炭素の排出係数が、目標の設定時に想定していた数値よりも大きく増加したこと、市内の全小・中学校の体育館に空調施設が整備されたことにより、都市ガスの使用量が増加したことが目標未達成の主な要因です。								
【施策指標の分析 R7】 「効率的なエネルギー調達と再生可能エネルギー導入」に基づく取り組みにより、二酸化炭素排出量が実質ゼロの再生可能エネルギー由来の電気が導入され、電気使用量全体の約41%が再エネ由来電力に切り替わったことが主な要因です。								

4. 取組満足度と関心・期待度・ニーズの4象限マトリクス分析

関心・期待度・ニーズが高い

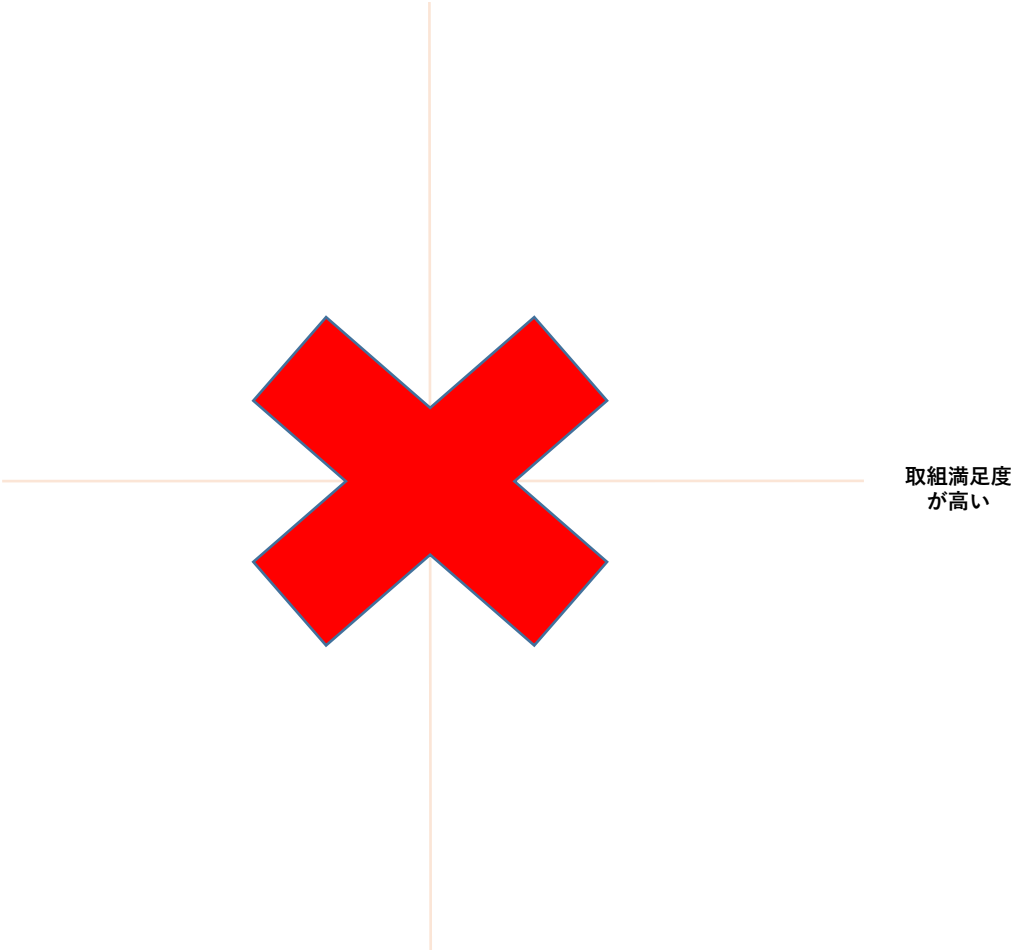
地球温暖化対策
27_01 ゼロカーボンシティの推進

施策満足度		
満足	不満足	どちらとも いえない わからない
11.9%	22.6%	65.4%
「決め手となった取り組みはない」と 回答した人		
51.4%		

※回答数／全体数1,762

※満足の定義は、「感じている」「やや感
じている」を選択した人
不満足の定義は、「あまり感じていな
い」「感じていない」を選択した人

※各施策における取組満足度や関心・期待・
ニーズを分析するものであり、異なる施策
間での比較を行うものではありません。



施策の分析

※取り組みが2つのためマトリクス分析不可
・再エネ・省エネ・EV等の普及促進
・電気の一括購入と再エネ導入

5. 評価を踏まえた今後の方向性

今後の方向性

- ・ 施策の方向性としては、デジタル化の推進による電気需要の増大が今後も予測される中、持続可能な運用に向け、再生可能エネルギーの利用拡大及び省エネルギーの推進に向けた支援の取り組みを進めていく。また、市民意識調査の結果を受けて、ゼロカーボンシティの推進に向けては、市民一人ひとりが自分ごととして取り組む必要があることから、より一層の意識醸成に向けて、市民の関心と呼び込むことにつながるよう取り組みを推進する。
- ・ ため池等を活用した再生可能エネルギーの導入をモデルに、エネルギーの地産地消の拡大の取り組みを推進する。また、照明器具のLED化改修工事についても引き続き推進していく。

6. 施策評価員による評価【外部評価】

施策評価員による評価

- ・ 学校を通じて児童・生徒に市の環境問題に対する取り組みを案内することは、多世代に認識してもらうことに効果的であると考えます。
- ・ 指標については、排出係数というコントロールができない要因によるものではなく、省エネに向けた取り組みが反映される指標を設定し直すべきではないか。
- ・ 来年からのエアコンの省エネ基準引き上げを契機とするような市の施策を検討し、市の取り組み周知につなげてはどうか。市施設における省エネ＆エコの取り組みのPRを実施してはどうか。
- ・ ゼロカーボンシティの推進に向け、地域資源（山・河川）を活かした取り組みも検討してはどうか。
- ・ 化石燃料依存から再生可能エネルギーへの進展と、省エネルギー型都市と生活への構造転換、また、気候変動は市民生活に大きな影響があることから、適応策を検討していく必要があるのではないかと。

1. 施策の概要

施策シート【28_01】

環境部、都市整備部、土木部

施策名称		景観に配慮した美しいまち並みの形成			
総合計画体系	基本目標等	5.自然と共生し、美しい環境を守り育てるまち			
	施策目標等	28.美しく魅力あるまち並みが育まれるまち			
めざす姿（主観的満足度）		まちの美化が進んでいる			
概要		道路・公園等の美化活動の促進、歴史的景観の保全、地域特性に応じた魅力あふれる景観づくりを図る。			
計画期間 中の 実施予定 時期	R6年度				
	1. 歴史的景観の保全 2. 都市景観の形成 3. アダプトプログラムの推進				
	R7年度				
	4. 枚方市駅北口周辺地区における路上喫煙対策 ○禁止区域の変更 ○屋外喫煙所の設置工事				
	R8年度				
	R9年度				

2. 市民満足度、取り組み実績および施策指標の分析

市民満足度の分析

【満足度33.3%】

- ・年代別では、19歳以下が最も高く、46.2%である。最も低いのは、40歳台で30.5%であった。
- ・昨年度と比較すると全体では、7.2ポイント減少したものの、子育て世代（25～44歳）では、1.1ポイントの減少にとどまっている。

取り組み実績および施策指標の分析

【取り組み実績】

- ・施策の進捗としては、概ね達成できているが、「4. 枚方市駅北口周辺地区における路上喫煙対策」の進捗が遅れている。

【施策指標】

- ・「景観アドバイザーより助言を受けた件数（累計）」については未達成だが、目標には近づいている。それ以外の指標については、指標は未達成であった。

3. 具体的な取り組みの進捗と施策指標の実績

施策シート【28_01】－ 具体的な取り組み

環境部、都市整備部、土木部

施策名称	景観に配慮した美しいまち並みの形成
------	-------------------

1. 歴史的景観の保全

取り組みの内容	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	担当課
歴史的な街並み景観の保全のため街道沿いに残された貴重な町家の保全や、一般の建物の歴史的な修景について建物所有者等と調整を行い、建造物等の外観等の修復、復元等に要する経費の一部を助成。	修景補助金を交付	継続	・修景補助金を交付 ・社会資本総合整備計画の次期計画の提出	修景補助金を交付	住宅まちづくり課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	取り組み結果	取り組み結果	取り組み結果	備考
修景補助に関する周知が十分ではないため、改訂した修景ガイドライン等を活用した修景補助の更なる周知を行う必要がある。	・修景助成の周知に活用するため、修景ガイドラインの改訂やリーフレットの作成を行った。	・修景助成の更なる周知のため、ポスティングによるリーフレットの配布を行った。			
年度ごとの達成状況	○	○			

指標名	指標の説明	R6	R7	R8	R9	単位	担当課	関連する取り組み等
修景補助を受けた建物の件数（累計）	歴史的景観保全地区において市からの修景補助を受けた建物修景件数（累計）	58	60	62	64	件	住宅まちづくり課	1. 歴史的景観の保全
各年度の実績		55	55			件	備考	
【施策指標の分析 R6】 修景補助に関する相談が限定的であったため目標値を達成しなかった。今後、目標達成に向けて改訂した修景ガイドライン等を活用した修景補助の周知に取り組んでいく。								
【施策指標の分析 R7】 修景補助に関する相談が限定的であったため目標値を達成しなかった。引き続き、目標達成に向けて修景ガイドラインの活用やリーフレットの配布など、修景補助の周知に取り組んでいく。								

施策シート【28_01】－ 具体的な取り組み

環境部、都市整備部、土木部

施策名称	景観に配慮した美しいまち並みの形成
------	-------------------

2. 都市景観の形成

取り組みの内容	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	担当課
景観法、屋外広告物法を活用し、市民や事業者とともに地域の特性を生かした良好なまち並み形成を図るため、一定規模以上の建築物等や歴史的な街並み等の景観誘導を実施。	・一定規模以上の建築物等の景観誘導 ・景観アドバイザー制度の活用を促し、良好な景観形成のための助言を行う	継続	継続	継続	住宅まちづくり課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	取り組み結果	取り組み結果	取り組み結果	備考
できるだけ早い設計段階で景観アドバイザー制度の活用ができるよう、本制度の更なる周知を行う必要がある。	・開発事業等に伴う事前協議などに合わせて、景観アドバイザー制度の活用を案内した。	・開発事業等に伴う事前協議などに合わせて、景観アドバイザー制度の活用を案内した。			
年度ごとの達成状況	◎	○			

指標名	指標の説明	R6	R7	R8	R9	単位	担当課	関連する取り組み等
景観アドバイザーより助言を受けた件数（累計）	建築等に関する計画を進める際に、景観アドバイザーより助言を受けた件数（累計）	38	41	44	47	件	住宅まちづくり課	2. 都市景観の形成
各年度の実績		38	39			件	備考	
【施策指標の分析 R6】 今後も景観アドバイザー制度の更なる周知に取り組んでいく。								
【施策指標の分析 R7】 景観計画の運用に係るてびきやガイドラインを検討する中で、景観アドバイザー制度の案内を盛り込むなど、今後も更なる制度の周知に取り組んでいく。								

施策シート【28_01】－ 具体的な取り組み

環境部、都市整備部、土木部

施策名称	景観に配慮した美しいまち並みの形成
------	-------------------

3. アダプトプログラムの推進

取り組みの内容	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	担当課
まちの環境美化を進めるため、市が管理する道路や公園・緑地等の公共場所において、美化活動に取り組む市民団体や企業に対して協定に基づく支援を実施。	地域清掃（美化）活動に対し、ごみ袋の配布やごみの収集の支援を実施	継続	継続	継続	環境事業課、公園みどり課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	取り組み結果	取り組み結果	取り組み結果	備考
- 引き続きアダプト団体へ支援を行う。 - 各団体の高齢化が進み人員も減少している現状において、引き続き、花苗配布等の更なる活動支援に取り組む。	- アダプト団体への清掃用具の提供及び排出されたごみの収集・処分等を実施した。 【環境事業課分】 ごみ袋の配布2170枚、清掃用具等の提供433個、ごみ回収581件（2590袋） - ごみ袋の配布やごみの収集の支援を実施した。 清掃用具やごみ袋の配布145件、ごみ回収524件。	- ごみ袋の配布やごみの収集の支援を実施した。 - アダプト団体への清掃用具の提供及び排出されたごみの収集を実施した。 【環境事業課分】 ごみ袋の配布2860枚、清掃用具等の提供305個、ごみ回収485件（2229袋） 【公園みどり課分】 ごみ袋の配布8410枚、清掃用具等の提供38個、ごみ回収453件。 - 花苗の配付として延べ180箇所に20576株の配付を行なった。			
年度ごとの達成状況	◎	◎			

施策シート【28_01】－ 施策指標

環境部、都市整備部、土木部

施策名称	景観に配慮した美しいまち並みの形成
------	-------------------

指標名	指標の説明	R6	R7	R8	R9	単位	担当課	関連する取り組み等
継続して環境美化活動を行う市民団体数	公共場所（駅前・道路・公園等）の美化活動を行う市民活動団体（アダプトプログラム登録団体）数	242 285 (公園アダプト団体数)	244 286 (公園アダプト団体数)	246 287 (公園アダプト団体数)	248 288 (公園アダプト団体数)	活動団体数	環境事業課、公園みどり課	3. アダプトプログラムの推進
各年度の実績		(環境)62 (土木)175	(環境) 54 (土木) 173			活動団体数	備考	
【施策指標の分析 R6】 ・（環境）企業撤退及び高齢化により、登録団体は減少傾向にある。 ・（土木）登録団体数が前年度171団体から令和6年度は175団体に増加した。 団体活動の機運醸成を図るべく、緑化講習会への参加を促す。								
【施策指標の分析 R7】 ・（環境）企業撤退及び高齢化により、登録団体は減少傾向にある。 ・（土木）団体登録数が前年度175団体から173団体に減少した。団体活動の機運醸成を図るため緑化講習会等の参加を促す。								

施策シート【28_01】－ 具体的な取り組み

環境部、都市整備部、土木部

施策名称	景観に配慮した美しいまち並みの形成
------	-------------------

4. 枚方市駅北口周辺地区における路上喫煙対策

取り組みの内容	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	担当課
市街地再開発事業の完成に併せて、路上喫煙禁止区域の追加・拡大の検討。 ・枚方市駅北口周辺エリアに屋外喫煙所を設置	—	禁止区域の変更 屋外喫煙所の設置工事	啓発活動 屋外喫煙所の維持管理	啓発活動 屋外喫煙所の維持管理	環境政策課 市駅周辺まち活性化部 保健医療課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	取り組み結果	取り組み結果	取り組み結果	備考
枚方市駅北口についてたばこのポイ捨てを抑制するため、屋外喫煙所を設置するとともに、路上喫煙禁止区域の再検討を行う。	屋外喫煙所設置候補地の土地所有者及びたばこ事業者との協議を行った。	たばこ事業者からの屋外喫煙所の寄附は延期となったが、引き続き喫煙所の設置に向けて関係者と協議を行った。			
年度ごとの達成状況	○	△			

指標名	指標の説明	R6	R7	R8	R9	単位	担当課	関連する取り組み等
枚方市駅周辺の路上喫煙禁止区域内にポイ捨てされたたばこの本数 (拡大エリアを含む)	枚方市駅周辺の路上喫煙禁止区域内にポイ捨てされたたばこの本数	—	224	135	112	本	環境政策課	4. 枚方市駅北口周辺地区における路上喫煙対策
各年度の実績		—	327			本	備考	
【施策指標の分析 R6】 —								
【施策指標の分析 R7】 屋外喫煙所の設置が延期となったため目標は未達成となった。今後も引き続き、設置に向けて関係者と協議を行っていく。								

4. 取組満足度と関心・期待度・ニーズの4象限マトリクス分析

関心・期待度・ニーズが高い

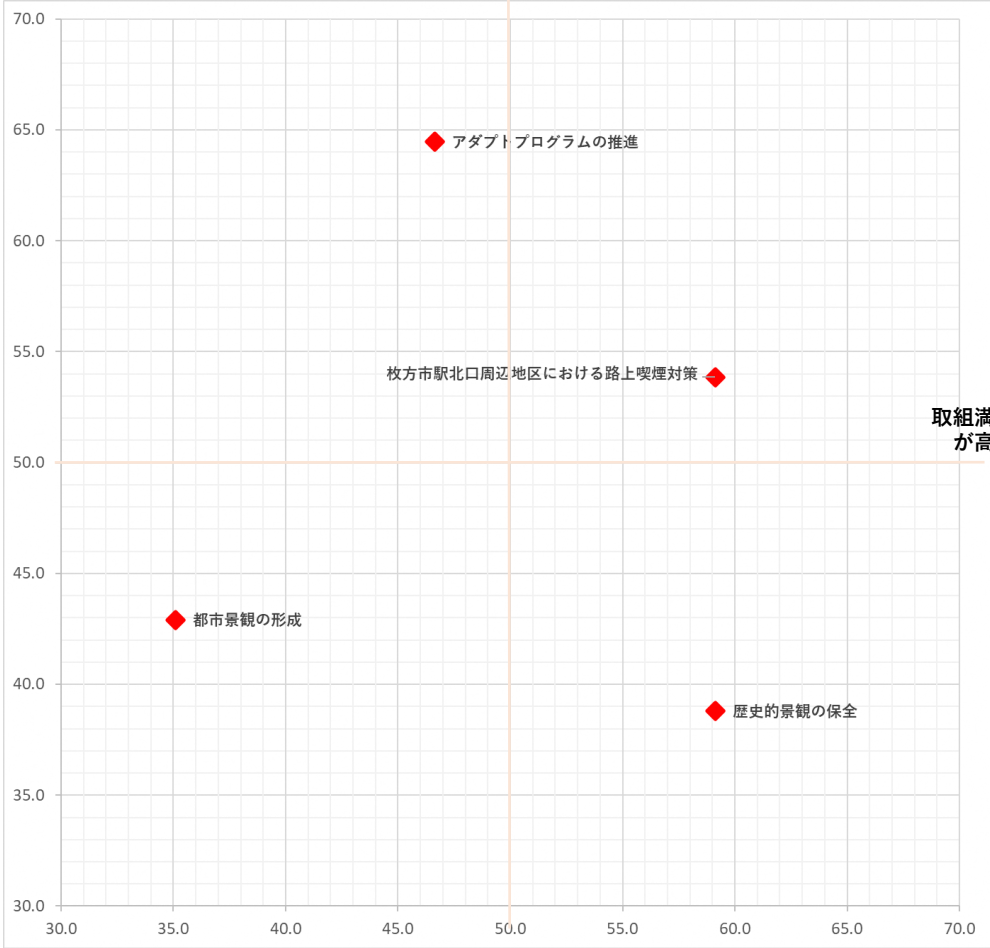
まちの美化が進んでいる
28_01 景観に配慮した美しい
まち並みの形成

施策満足度		
満足	不満足	どちらとも いえない わからない
33.3%	18.6%	48.2%
「決め手となった取り組みはない」と 回答した人		
32.5%		

※回答数／全体数1,762

※満足の定義は、「感じている」「やや感
じている」を選択した人で、
不満足の定義は、「あまり感じていな
い」「感じていない」を選択した人

※各施策における取組満足度や関心・期待・
ニーズを分析するものであり、異なる施策
間での比較を行うものではありません。



目指すべき姿
(施策満足
度)『まちの
美化が進んで
いる』に紐づ
く全取り組み
⇒青丸●

上記のうち施
策シート
『28_01 景
観に配慮した
美しいまち並
みの形成』に
紐づく取組
み⇒赤ダイヤ
◆

施策の分析

- ・「3. アダプトプログラムの推進」の関心・期待度・ニーズは高いものの、取組満足度は平均的である。
- ・「4. 枚方市駅北口周辺地区における路上喫煙対策」の取組満足度は高いものの、関心・期待度・ニーズは平均的である。
- ・「1. 歴史的景観の保全」の関心・期待度・ニーズは低いものの、取組満足度は高い。
- ・「2. 都市景観の形成」の関心・期待度・ニーズと取組満足度はともに低い。

5. 評価を踏まえた今後の方向性

今後の方向性

- ・施策全体の方向性としては、景観保全に関する補助や制度のさらなる活用に向けた周知を行うとともに、高齢化等による地域の美化活動の担い手不足が進んでいく中、景観に配慮した美しいまち並みの形成に向け、機運醸成を図る取り組みを進めていく。
- ・「3. アダプトプログラムの推進」については、引き続きアダプト団体へ花苗配布等の更なる活動支援に取り組む。
- ・「4. 枚方市駅北口周辺地区における路上喫煙対策」については、公民連携による屋外喫煙所の早期実現に向け関係者との協議を進めるとともに、路上喫煙禁止区域の拡大を目指していく。

1. 施策の概要

施策シート【29_01】

市長公室

施策名称		広報・広聴活動の充実			
総合計画体系	基本目標等	計画推進			
	施策目標等	29.市民との情報の共有化を進めます			
めざす姿（主観的満足度）		行政からの情報発信が充実している			
概要		市政や地域の情報を積極的に提供するとともに、人を呼び込むような市の魅力を市内外へ広く発信する。また、市民からの意見を広く聴取し、取り組みの成果や課題を共有することで、協働のまちづくりを進める。			
計画期間 中の 実施予定 時期	R6年度				
		1. PRテーマの設定 2. シティプロモーションにおける連携・つながりの強化 3. ハイブリッド型情報発信の推進 4. 生活相談等の充実 5. 市政モニターアンケートの実施			
	R7年度				
		4. 生活相談等の充実 ○インターネット予約やオンライン相談の拡充などの相談体制の充実			
	R8年度				
	R9年度				

2. 市民満足度、取り組み実績および施策指標の分析

市民満足度の分析

【満足度40.4%】

- ・年代別では、30歳台が最も高く、50.5%である。最も低いのは、19歳以下で30.8%であった。
- ・昨年度と比較すると全体では、7.0ポイント減少したものの、熟年世代（45～64歳）では、2.1ポイントの減少に留まった。

取り組み実績および施策指標の分析

【取り組み実績】

- ・施策の進捗としては、概ね達成できている。

【施策指標】

- ・「シティプロモーションにおいて市と連携・つながりを持つ主体の数」「デジタル版広報ひらかた」を読んでいる人（又は配信を希望する人）の割合」については未達成だが、それ以外の指標については、指標を達成している。

3. 具体的な取り組みの進捗と施策指標の実績

施策シート【29_01】－ 具体的な取り組み

市長公室

施策名称	広報・広聴活動の充実
------	------------

1. P Rテーマの設定

取り組みの内容	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	担当課
市外からの枚方への関心の高まりと定住の促進、市民の街への愛着醸成につなげるため、市として強く押し出すべきPRテーマを設定し、ウェブ広告など多様な媒体を効果的に活用し展開する。	庁内連携のもと設定したPRテーマについて、市内・市外に向け多様な媒体活用によりプロモーションを展開	継続	継続	継続	広報プロモーション課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	取り組み結果	取り組み結果	取り組み結果	備考
「子育てといえば枚方」というブランドイメージ構築に向けた、より戦略的な展開が課題。適切な効果指標を設定するとともに、市民や事業者も巻き込む形で各PR施策の実効性をさらに高めていきたい。	「だから、枚方」をキャッチフレーズに子育てに関する魅力・強みについて、庁内連携のもとプロモーションを展開した。	「だから、枚方」をキャッチフレーズに子育てに関する魅力・強みについて、市内・民間事業者とも連携し市民の声を活かしたプロモーションを展開した。			
年度ごとの達成状況	◎	◎			

指標名	指標の説明	R6	R7	R8	R9	単位	担当課	関連する取り組み等
シティプロモーションサイトへのアクセス数	多様な媒体によるプロモーション・広告の流入先としてシティプロモーションサイトを設定し、当サイトにおいてより詳細な情報を届ける。	30,000	65,000	75,000	78,000	件	広報プロモーション課	1. P Rテーマの設定
各年度の実績		62,947	72,842			件	備考	
【施策指標の分析 R6】 アピール企画「だから、枚方」の取り組みにおいて、インスタ広告等を積極的に展開し、広告からの遷移先としてシティプロモーションサイトを設定したことによりアクセスを大きく伸ばすことができた。								
【施策指標の分析 R7】 アピール企画「だから、枚方」の取り組みにおいて、インスタ広告やフォトムービープロジェクトの実施にあたり、遷移先としてシティプロモーションサイトを設定したことなどによりアクセスを大きく伸ばすことができた。								

施策名称	広報・広聴活動の充実
------	------------

2. シティプロモーションにおける連携・つながりの強化

取り組みの内容	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	担当課
広がりのあるシティプロモーションとするため、枚方の魅力を発信する市PR大使や、市民などで構成するひらかたプロデューサーズなど多様な主体との連携に努めながら、枚方に関わる人を表す「枚方家族」等の新たな枠組みを再構成。	「枚方家族」などの新たな枠組み検討	継続	「枚方家族」を増やすことで自発的な情報発信を促す取り組みを推進	継続	広報プロモーション課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	取り組み結果	取り組み結果	取り組み結果	備考
市に誇り・愛着を持つ市民や市に交流・興味を持つ市外の人などの枚方市のファンを「枚方家族」として枠組みを整理し、この「枚方家族」を増やすことで、自発的な発信も含めた情報発信の強化を目指す。	庁内各部署にPR大使との積極連携を働きかける等により、広がりのあるプロモーションに取り組んだ。「枚方家族」の枠組み再構築については、新たな連携方法などの検討を進めた。	新たな連携方法などの検討を進め、「枚方家族」の枠組みや方向性を整理した。庁内各部署にPR大使との積極連携を働きかける等により、広がりのあるプロモーションに取り組んだ。			
年度ごとの達成状況	○	○			

指標名	指標の説明	R6	R7	R8	R9	単位	担当課	関連する取り組み等
シティプロモーションにおいて市と連携・つながりを持つ主体の数	枚方PR大使、ひらかたプロデューサーズまたは新たに再構成する「枚方家族」などとして、市とのつながりを持ち主体的な情報発信を行っていただける人の数	250	270	350	400	人	広報プロモーション課	2. シティプロモーションにおける連携・つながりの強化
各年度の実績		249	249			人	備考	
【施策指標の分析 R6】 「枚方家族」の枠組みについては検討しているが、現時点では当該人数を把握するまでに至っておらず、既存の枚方PR大使、ひらかたプロデューサーズについて、主体的な情報発信を実施していただいた。								
【施策指標の分析 R7】 市と連携・つながりを持つ主体の把握・拡大を図りながら、シティプロモーションの推進につなげていくため「枚方家族」の枠組みや方向性を整理した。既存の枚方PR大使等と連携し、メッセージの提供など主体的な情報発信に協力いただくなど、市の魅力発信に取り組んだ。								

施策名称	広報・広聴活動の充実
------	------------

3. ハイブリッド型情報発信の推進

取り組みの内容	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	担当課
多言語アプリ「カタログポケット」の活用など多様な人たちに適切に情報を届けるための体制確保と、新たな媒体を探り入れることなど「広報ひらかた」の電子化を促進する。	広報紙とデジタル媒体の連携（ハイブリッド型情報発信）を進め、それぞれの媒体が情報を相互に補完、拡張することでの情報発信強化	継続	継続	継続	広報プロモーション課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	取り組み結果	取り組み結果	取り組み結果	備考
将来的な広報紙面のデジタル化も見据え、引き続き他市の状況等も注視しながら、紙面のあり方検討が必要	広報紙記事作成において、動画との連動など媒体ごとの長所を生かした紙面作りを実践した。	広報紙記事作成において、動画との連動など媒体ごとの長所を生かした紙面作りとともに、より多言語に翻訳できる「マチイロ」へアプリを変更した。			
年度ごとの達成状況	○	○			

指標名	指標の説明	R6	R7	R8	R9	単位	担当課	関連する取り組み等
「デジタル版広報ひらかた」を読んでいる人（又は配信を希望する人）の割合	アンケート調査において、「電子媒体で読んでいる（又は読むことを希望する）」と回答した件数／アンケート回答者数	21	22	24	25	%	広報プロモーション課	3. ハイブリッド型情報発信の推進
各年度の実績		21	18			%	備考	
【施策指標の分析 R6】 広報紙面で毎月実施するアンケートでは21%が電子媒体での購読を希望する意向があり、引き続き各媒体の調書を生かしたハイブリッド型情報発信を行い、デジタル媒体の活用を推進していく。								
【施策指標の分析 R7】 広報紙面で毎月実施するアンケートでは18%が電子媒体での購読を希望する意向があり、引き続き各媒体の長所を生かしたハイブリッド型情報発信を行い、デジタル媒体の活用を推進していく。								

施策シート【29_01】－ 具体的な取り組み

市長公室

施策名称	広報・広聴活動の充実
------	------------

4. 生活相談等の充実

取り組みの内容	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	担当課
相談担当職員による生活相談業務の実施。 専門相談員による専門相談（法律相談・交通事故相談等）の実施。 憲法・法の日週間記念「市民講座」の開催。 令和6年4月からの相続登記義務化に応じ、登記相談のインターネット予約とオンライン相談の拡充。	・大阪司法書士会と相談体制の調整を行う ・今後も市民に寄り添った相談を心がける	・引き続き、「広報ひらかた」への掲載や、他部署主催の講座等で、相談案内チラシを配布 ・インターネット予約やオンライン相談の拡充などの相談体制の充実	継続	継続	広聴相談課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	取り組み結果	取り組み結果	取り組み結果	備考
時間や場所にとらわれない相談体制の整備 誰一人取り残されないまちづくりの実現	・大阪司法書士会と連携し、オンラインによる登記相談を開始 ・相談者満足度99.2%を達成	・「広報ひらかた」への掲載や相談案内チラシを配布し、積極的な周知を実施 ・すべての専門相談でオンラインを実施			
年度ごとの達成状況	◎	◎			

施策シート[29_01]ー 施策指標

市長公室

施策名称	広報・広聴活動の充実
------	------------

指標名	指標の説明	R6	R7	R8	R9	単位	担当課	関連する取り組み等
完結目標日達成率	回答全体のうち、完結目標日までに回答できた割合【算出式：完結目標日までに回答した件数／受付けた「市民の声」（供覧処理のみのもの等を除く）】	90	90	90	90	%	広聴相談課	4. 生活相談等の充実
各年度の実績		96.3	90			%	備考	
【施策指標の分析 R6】 回答全体のうち、回答目標日を超過した回答は1件であった。目標日間際の回答が数件あり、今後も迅速な回答ができるよう、取り組みをすすめる。								
【施策指標の分析 R7】 回答全体のうち、回答目標日を超過した回答は3件であった。関係課との円滑な調整に努め、今後も迅速な回答ができるよう、取り組みをすすめる。								
相談者満足度	枚方市品質マネジメントシステムに基づく満足度【算出式：「満足」「概ね満足」と回答した件数／アンケート回答者数】	80	80	90	95	%	広聴相談課	4. 生活相談等の充実
各年度の実績		99.2	97.0			%	備考	
【施策指標の分析 R6】 枚方市品質マネジメントシステムでの評価項目別にみると「案内表示のわかりやすさ」にやや課題が残るが、全体の満足度は目標値を十分に満たしている。								
【施策指標の分析 R7】 枚方市品質マネジメントシステムによる評価全体は「満足」「概ね満足」となっており、今後も維持向上に努める。								

施策シート【29_01】－ 具体的な取り組み

市長公室

施策名称	広報・広聴活動の充実
------	------------

5. 市政モニターアンケートの実施

取り組みの内容	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	担当課
市政モニターの協力を得て、市政についてのアンケート調査を実施	モニター更新年あたり、モニター数の確保と回答率の向上に取り組む	引き続きモニター数の確保と、回答率の向上に取り組む	継続	継続	広聴相談課
取り組み課題・今後の方向性	取り組み結果	取り組み結果	取り組み結果	取り組み結果	備考
市内人口構成に倣うよう、若年・子育て世代のモニター登録を積極的に推進	R6年度当初での総登録モニター数は518と、十分な人数を確保できた。	R7年度の総登録モニター数は513名であり、回答率はR6年度と比較して3ポイント低下したため、改善に努める。			
年度ごとの達成状況	◎	○			

指標名	指標の説明	R6	R7	R8	R9	単位	担当課	関連する取り組み等
市政モニターの年間平均回答者数	市政モニターを対象としたアンケートの年間平均回答者数	385	385	405	410	人	広聴相談課	5. 市政モニターアンケートの実施
各年度の実績		442	400			人	備考	
【施策指標の分析 R6】 平均回答者数は目標の115%を達成。平均回答率は85.4%であり、信頼性の高いアンケートを実施できた。								
【施策指標の分析 R7】 平均回答者数は目標の103%を達成。平均回答率は78.0%となり、前年度比較からは低下しているものの信頼性の高いアンケートを実施できた。								

4. 取組満足度と関心・期待度・ニーズの4象限マトリクス分析

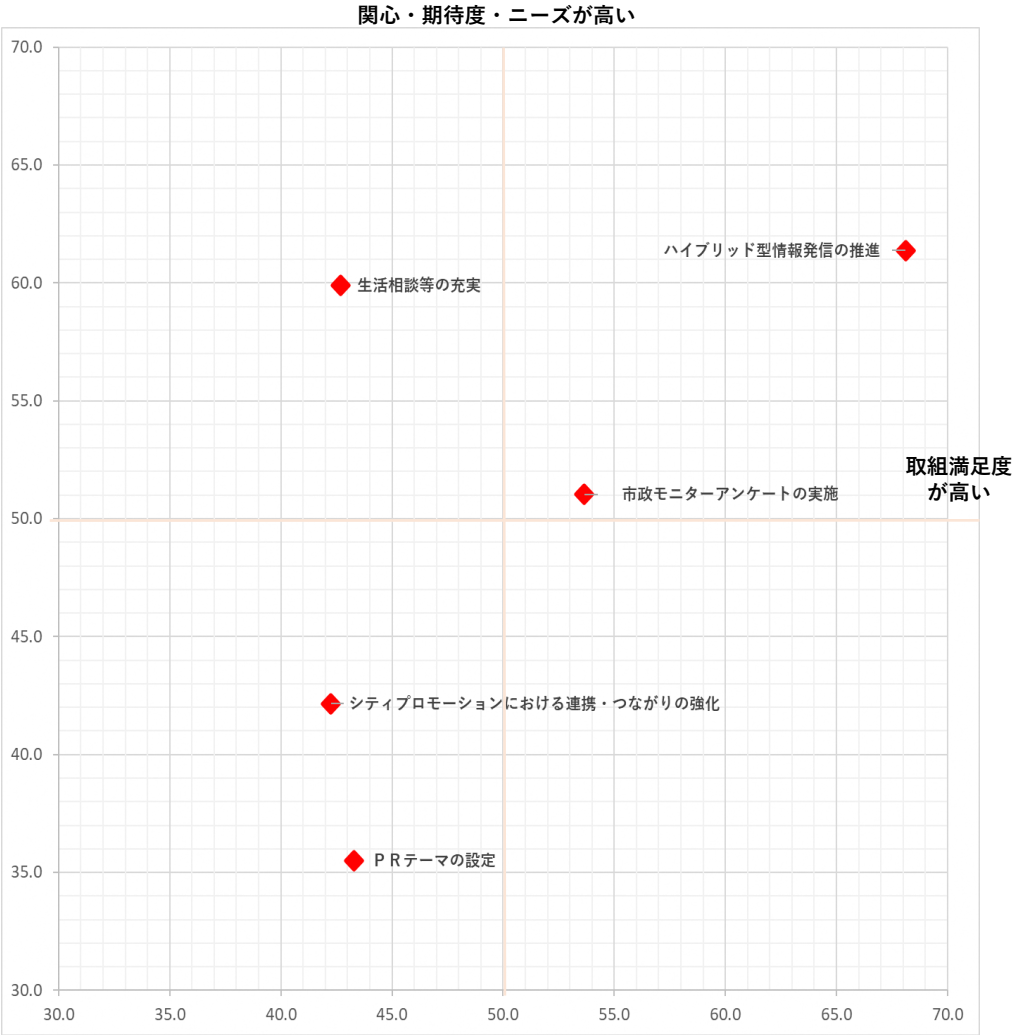
行政からの情報発信が充実している
29_01 広報・広聴活動の充実

施策満足度		
満足	不満足	どちらとも いえない わからない
40.4%	14.1%	45.5%
「決め手となった取り組みはない」と 回答した人		
33.0%		

※回答数／全体数1,762

※満足の定義は、「感じている」「やや感じている」を選択した人で、
不満足の定義は、「あまり感じていない」「感じていない」を選択した人

※各施策における取組満足度や関心・期待度・ニーズを分析するものであり、異なる施策間での比較を行うものではありません。



目指すべき姿
(施策満足度)『行政からの情報発信が充実している』に紐づく全取り組み⇒
青丸●

上記のうち施策シート
『29_01 広報・広聴活動の充実』に紐づく取り組み⇒
赤ダイヤ◆

施策の分析

- ・「3. ハイブリッド型情報発信の推進」の関心・期待度・ニーズと取組満足度はともに高い。
- ・「5. 市政モニターアンケートの実施」の関心・期待度・ニーズと取組満足度はともに平均的である。
- ・「4. 生活相談等の充実」の関心・期待度・ニーズは高く、取組満足度は低い。
- ・「1. PRテーマの設定」、「2. シティプロモーションにおける連携・つながりの強化」の関心・期待度・ニーズと取組満足度はともに低い。

5. 評価を踏まえた今後の方向性

今後の方向性

- ・施策全体の方向性としては、若者世代にも市政や地域の取り組みに関する情報に触れやすいようSNS等の活用を引き続き進めるとともに、関係機関と連携した取り組みやイベント等でのシティプロモーションなど、市内外への戦略的なPRに取り組んでいく。
- ・「4. 生活相談等の充実」については、多様化、複雑化する市民の不安や困りごとに対応できるようオンラインでの相談対応などの取り組みを進めていく。
- ・「2. シティプロモーションにおける連携・つながりの強化」、「3. ハイブリッド型情報発信の推進」は引き続き情報発信の強化や取り組み内容の見直しを行っていく。